

インフラツーリズム魅力倍増プロジェクト 各モデル地区の進捗状況と 今後の実施方針(案)について



1. 前回までの議論の概要
2. 各モデル地区の進捗状況
3. これまでの成果
4. 今後の実施方針(案)
5. インフラツーリズムの今後の留意点

1. 前回までの議論の概要

1. 前回までの議論の概要 — 懇談会の開催経緯 —

◆インフラツーリズム有識者懇談会

第1回 (H30.11.9)	・インフラツーリズムのこれまでの取組と課題 ・インフラツーリズムの今後の方向性
第2回 (H30.12.25)	インフラツーリズムの拡大にむけて
第3回 (H31.2.26)	拡大にむけたまとめと来年度の取り組みについて
第4回 (R1.6~7) (持ち回り開催)	・モデル地区(5地区)の選定 ・プロジェクトロゴマークの決定
第5回 (R2.1.28)	・各モデル地区の進捗状況 ※現地協議会、ファムツアーの実施結果を踏まえた事業実施方針、ツアー提案と今後の検討項目の整理 ・今年度成果とりまとめの方向性 ※以下を今年度成果のとりまとめの方向性として整理 ①インフラ施設見学の深度化 ②地域の観光資源と連携したコンテンツ検討 ③インフラツーリズムの運営体制構築 ④インフラツーリズムの実践

1. 前回までの議論の概要 —モデル地区の概要—

①^{なるこ}鳴子ダム【宮城県大崎市】

- ・日本人の技術者により造られた日本初のアーチダムで選奨土木遺産
- ・周辺には温泉、名勝、史跡等があり、農業遺産である大崎耕土も含めた流域連携モデル



- ## ②^{やんば}ハッ場ダム
- 【群馬県吾妻郡長野原町】
- ・建設中ダムでの多彩な見学ツアー（やんばツアーズ）を開催
 - ・令和元年度完成予定を踏まえ、建設段階から管理段階への移行モデル



③^{あまがせ}天ヶ瀬ダム【京都府宇治市】

- ・宇治市街地に近接
- ・立地を活かし、DMOと連携したツアー造成、淀川水系支流の高山ダムとの組み合わせなど広域連携モデル



④^{くるしま}来島海峡大橋 他

【愛媛県今治市】

- ・瀬戸内しまなみ海道上の世界初の三連吊り橋であり、塔頂体験ツアーを開催
- ・先行実施している明石海峡大橋のノウハウも取り入れ、長大橋のモデル



⑤^{つるだ}鶴田ダム

【鹿児島県薩摩郡さつま町】

- ・九州最大の重力式コンクリートダムで水位低下時には明治期の発電所遺構が出現
- ・霧島連山や桜島等の広域周遊モデル



1. 前回までの議論の概要 –モデル地区での取組内容–

1. 資源の調査

- 周辺観光資源の調査
- インフラの調査(視点場、開放可能性、現状の満足度調査等)

2. 地域資源を活用したツアーの企画

- ストーリーのあるツアーの組み立て
- シナリオの作成
- 説明要員の育成

3. ファムツアー※(下見招待旅行)の実施

- 旅行会社、訪日外国人旅行客、留学生等を対象にニーズを把握し、ツアーを実施
- アンケートやヒアリング等により意見聴収

※Familiarization Tour: 旅行事業者やメディアなどに現地を視察してもらうツアー

4. 持続的な体制づくり

- 持続的にツアーを実施するための体制を検討
- より満足度を向上させるために必要な施設整備等を整理

1. 前回までの議論の概要 — 事業成果取りまとめ方針(案) —

検討①: インフラ施設見学の深度化

★どのようにして顧客価値を向上させるかについて整理する。

検討②: 地域の観光資源と連携したコンテンツ検討

★ターゲット層の設定、地域の魅力を発信するストーリー組み立てについて整理する。

検討③: インフラツーリズムの運営体制構築

★地域での自立的なツアー実施のための体制構築について整理する。

検討④: インフラツーリズムの実践

★販売手法やプロモーションのあり方について整理する。

1. 前回までの議論の概要

— 第5回懇談会でいただいた主なご意見等 —

各モデル地区の取組内容

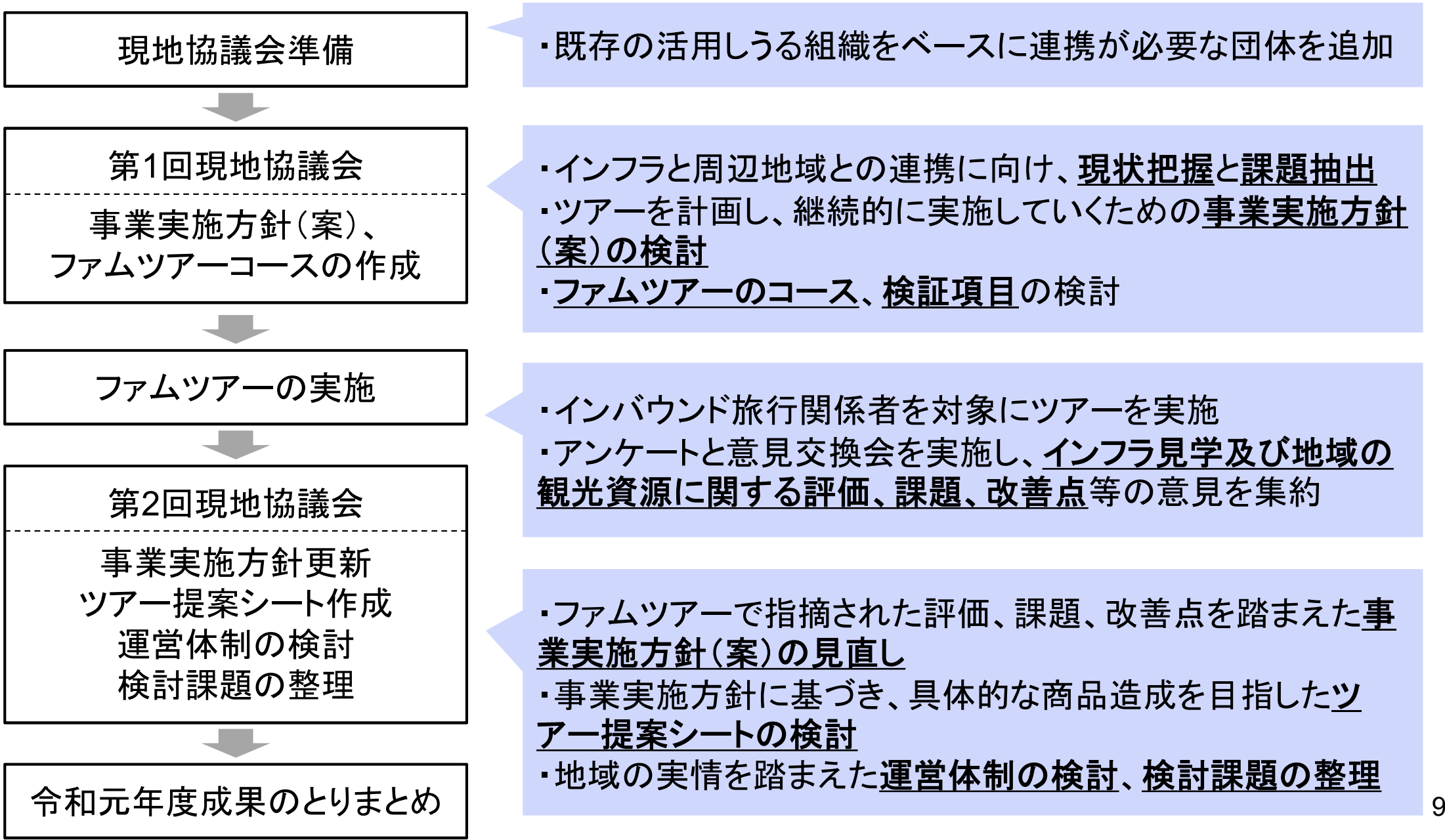
- 各地とも十分なシナリオ(ストーリー)ができていない。各地のレベルは合わせていくべき。
- インフラそのものが素材として成り立つようにしていくことが必要。
- 今後の展開に向けてのポイント
 - ① 見学のキャパシティの問題。増やせないなら強いテーマで高単価にする。
 - ② 周辺資源との連携。現状は狭い範囲にとどまっており地域で考える必要がある。
 - ③ ターゲット。欧米、アジアなどターゲットが誰なのか、テーマ設定と合わせて検討。
 - ④ ガイド。インフラ本体と広域観光のガイドをどうするかが喫緊の課題。
 - ⑤ 主導する組織。施設委管理者ではなく、DMOなどを検討。

事業成果取りまとめ方針(案)

- 「事業成果取りまとめ方針(案)」については、地域で全てを行うことは難しい。現状の棚卸しを行い、優先順位をつけるなどの整理をしないと、やりやすいものから着手してしまうので注意すべき。

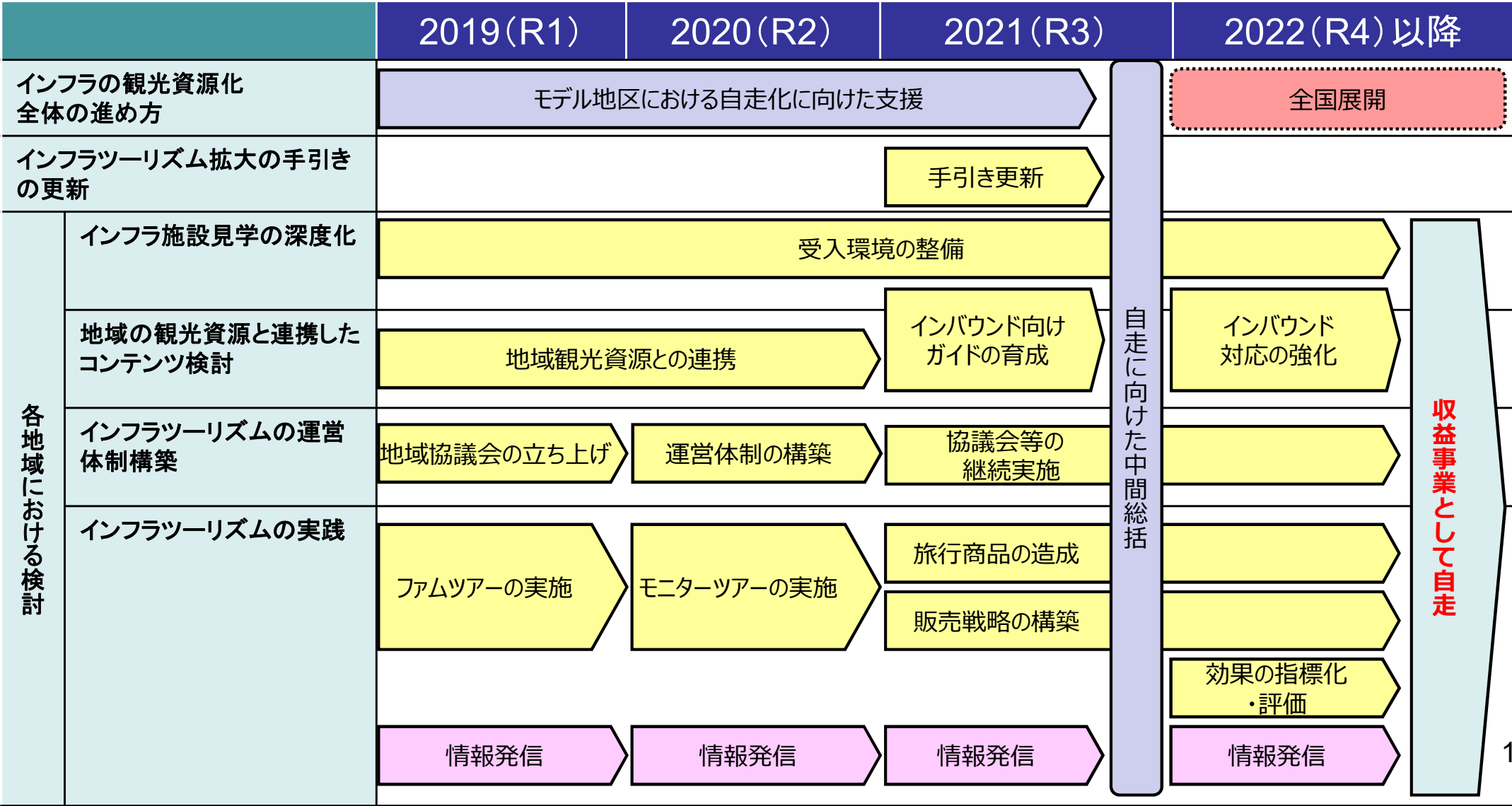
2. 各モデル地区の進捗状況

2. 各モデル地区の進捗報告 ―令和元年度事業フロー―



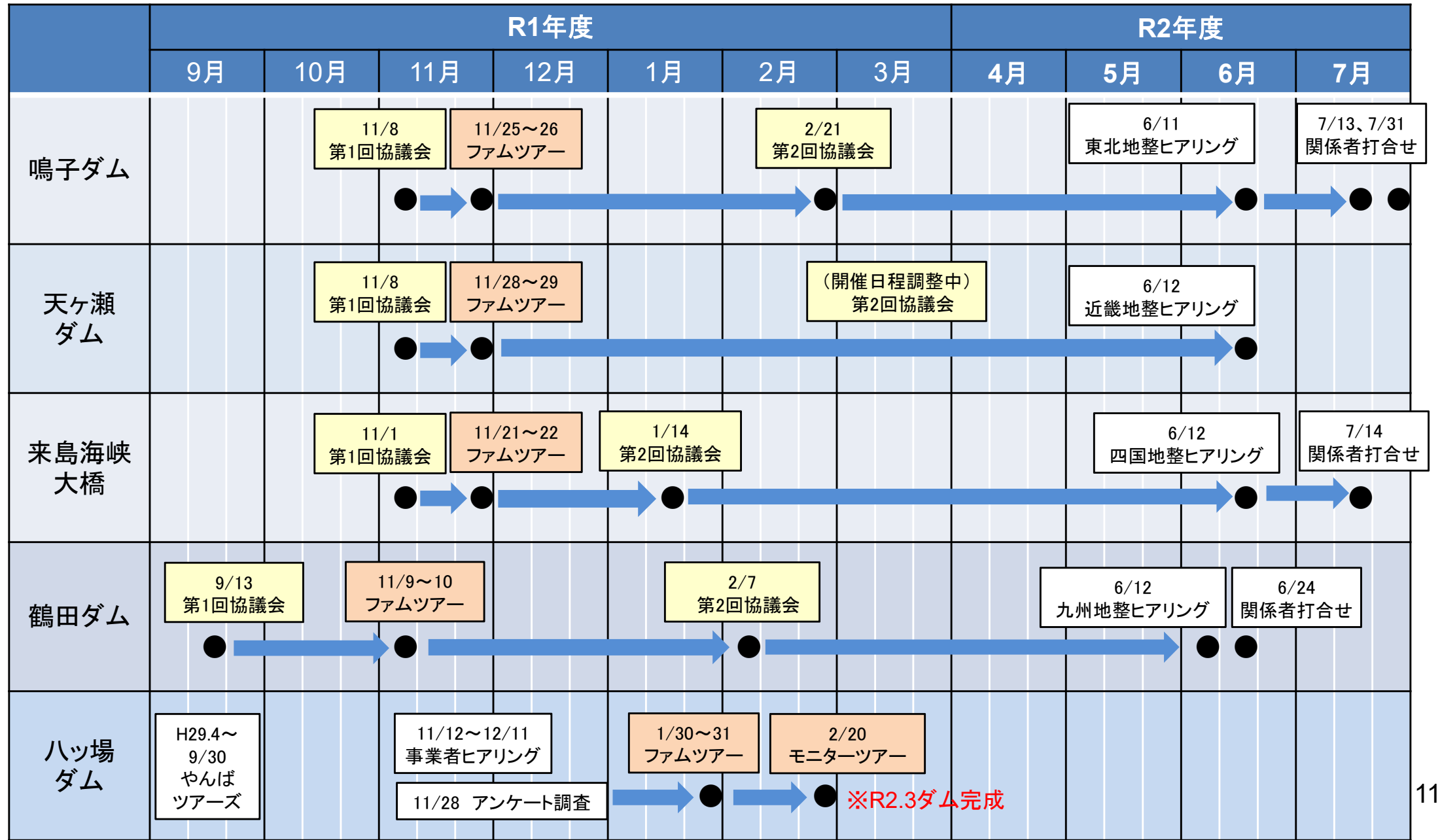
2. 各モデル地区の進捗報告 – 事業全体スケジュール –

- ・地域全体で収益を上げるための観光商品（有料参加のガイドツアーなど）の造成
- ・地域自身で商品を企画・募集・実施する主体（DMOなど、旅行業登録が必要）の設立
- ・インフラツーリズム拡大の手引きの更新（R3）



2. 各モデル地区の進捗報告

ー協議会、ファムツアー等の実施状況、予定ー



2. 各モデル地区の進捗報告 -鳴子ダム①-

◆ 現地協議会

<構成員>

既存組織：鳴子ダム水源地域ビジョン幹事会

大崎市、宮城県、(一社)みやぎ大崎観光公社、NPO法人鬼首山学校協議会、大崎市立鬼首小学校、鬼首地域づくり委員会、鳴子まちづくり協議会、鳴子温泉郷観光協会、(株)オニコウベ、大崎地域水管理協議会、東北電力(株)、鳴子ダム管理所

その他連携団体：NARU-GO！再生プロジェクト

<第2回協議会>

○日 時：令和2年2月21日 13:30～15:30

○場 所：鳴子ダム管理所 会議室

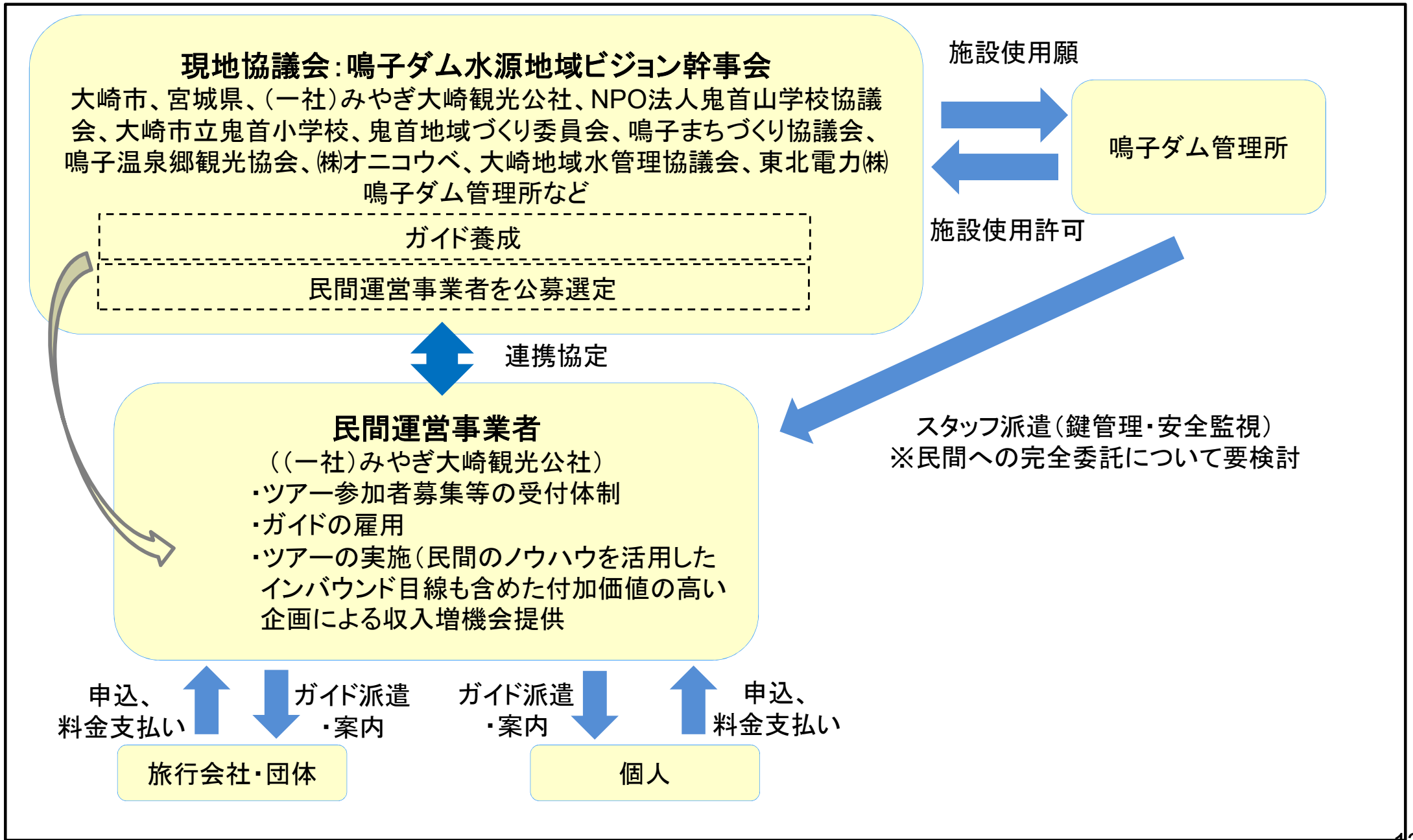
○議 事：

- (1) インフラツーリズム魅力倍増プロジェクトについて
- (2) 鳴子ダムを新たな観光名所とする観光ルートの提案について
- (3) 有識者(首都大学東京清水教授)よりアドバイス
- (4) 現状の課題整理と今後の対応策について
- (5) 今後のスケジュールについて
- (6) その他



2. 各モデル地区の進捗報告 -鳴子ダム②-

◆ 運営スキーム(案)



2. 各モデル地区の進捗報告 -鳴子ダム③-

◆ 検討課題の整理

	検討項目	検討主体	現状・検討状況	今後検討すべき事項
①インフラ施設見学の深度化	既存の見学プログラムの実施状況、参加者の評価、問題点、課題の整理	東北地整、本省(受注者)	既存実施状況について整理中	令和2年度以降の課題を整理
	施設固有の魅力・価値の洗い出し、見学者目線での「面白さ」の検討	東北地整、本省(受注者)	ツアー提案シートを作成	具体的なツアーへの反映
	見学ルートの検討	東北地整、本省(受注者)	既存の見学会コースにて実施	見学ルート、解説内容の再検討
	ガイドシナリオ・マニュアル作成	東北地整、本省(受注者)		ダム職員による説明内容の平準化、ブラッシュアップ
	定時出発の見学ツアーを想定したガイドの確保・育成	東北地整	ダム職員にて対応	必要な人数・体制の検討、研修等の実施
	見学ツアーの収益事業化の可能性検討	東北地整、本省(受注者)		原価計算(人件費・保険)、料金設定
	見学ツアー実施の民間等への委託の可能性検討	東北地整、本省(受注者)		安全の確保、保安要員の有無を中心に可能性を検討
②地域の観光資源と連携したコンテンツ検討	都道府県や市町村等の観光振興計画を踏まえた国内・海外の誘客ターゲット層の設定	現地協議会	県、市町村の計画を整理中	明確なターゲット設定
	周辺地域の観光資源の洗い出し(自然景観、歴史、伝統文化、生活文化、アクティビティ等)	現地協議会	鳴子ダム水源地ビジョンにて、旧鳴子町、鬼首地区の資源についてピックアップ	中流域(大崎耕土)、河口域との広域連携の検討
	地域の観光資源とインフラ施設を関連付けたストーリーの策定、ガイド養成	現地協議会(大崎市、みやぎ大崎観光公社)		ストーリー案の検討
	半日～1日の観光プログラムの商品化の検討	現地協議会(みやぎ大崎観光公社)		モデルコース(個人・団体)を設定
	ファムツアー等による検証とブラッシュアップ	現地協議会、本省(受注者)	ファムツアーを実施、結果の集約	事業方針やツアーへの反映点の整理
③インフラツーリズムの運営体制の構築	ツアーの運営主体を中心としたワーキンググループの立ち上げ	東北地整、現地協議会		民間主体の組織を検討
	協議会および地元自治体との役割分担	現地協議会		明確な役割分担の検討
	運営主体となり得る組織の候補、協議会メンバーのDMO・旅行業登録の有無の確認	現地協議会	みやぎ大崎観光公社が旅行業資格あり、運営主体候補	みやぎ大崎観光公社を主体に検討
	着地型旅行商品の造成・販売に関する機能・仕組みの有無の確認	現地協議会	みやぎ大崎観光公社が販売体制あり、運営主体候補	みやぎ大崎観光公社を主体に検討
	協議会から運営主体となる事業者に対する公募、選定、業務委託	現地協議会		公募手続きについて検討
④インフラツーリズムの実践	商品販売手法の検討(自社サイト、外部サイト、旅行会社)	ツアー実施事業者(みやぎ大崎観光公社)		販売手法の検討、計画の策定
	Webサイト、SNS、雑誌メディア等を活用した国内外への情報発信	現地協議会(みやぎ大崎観光公社)		情報発信計画の策定、実施
	都道府県や市町村の観光プロモーションと連動した活動の実施(海外旅行博・商談会への出展・参加等)	現地協議会(みやぎ大崎観光公社)		地元観光関連団体との関係深化

2. 各モデル地区の進捗報告 -鳴子ダム④-

◆第2回協議会意見要旨

- 運営体制の役割分担について令和元年度内に確認する。
- 令和2年度以降、能動的に推進する方向性について共有した。
- 提案シートとして示された各種商品案の中から、収益化並びに持続可能なモデルを検証し、着手可能なものから推進していく。



◆今後の自走に向けた取組(案)

- ① ターゲットの設定、ターゲットとのマッチングやストーリー立てといった、商品化に向けた取り組み
- ② 運営体制の構築と役割分担、協力者への還元など、収益化を目指した持続可能モデルの具現化

2. 各モデル地区の進捗報告 -天ヶ瀬ダム①-

◆ 現地協議会

<構成員>

既存組織：天ヶ瀬ダムを観光資源に含めた宇治市地域の観光発展検討会

宇治市、宇治商工会議所、宇治市観光協会、京阪ホールディングス(株)、
(一社)お茶の京都DMO、京都府、近畿地方整備局、琵琶湖河川事務所、
淀川ダム統合管理事務所

<第2回協議会>

○日 時：(開催日程調整中)

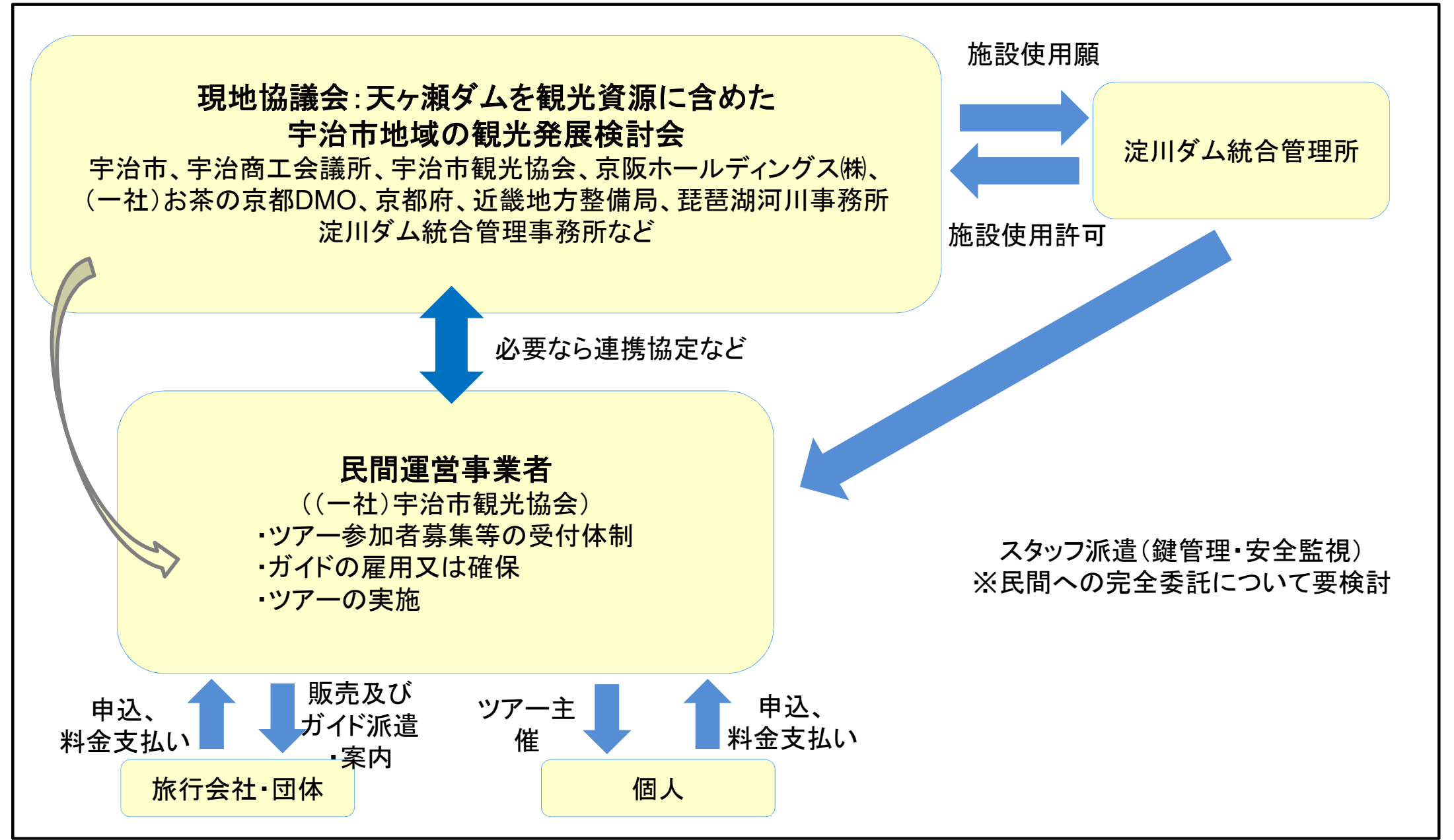
○場 所：(未定)

○議 事(予定)：

- (1) インフラツーリズム魅力倍増プロジェクトについて
- (2) 天ヶ瀬ダムを新たな観光名所とする観光ルートの提案について
- (3) 現状の課題整理と今後の対応策について
- (4) 今後のスケジュールについて
- (5) その他

2. 各モデル地区の進捗報告 -天ヶ瀬ダム②-

◆ 運営スキーム(案)



2. 各モデル地区の進捗報告 -天ヶ瀬ダム③-

◆ 検討課題の整理

	検討項目	検討主体	現状・検討状況	今後検討すべき事項
①インフラ施設見学の深度化	既存の見学プログラムの実施状況、参加者の評価、問題点、課題の整理	近畿地整、本省(受注者) 現地協議会	協議会でとりまとめ	令和2年度に向けた課題を整理
	施設固有の魅力・価値の洗い出し、見学者目線での「面白さ」の検討	近畿地整、本省(受注者)	ツアー提案シートを作成	具体的なツアーへの反映
	ダム施設見学ルートの検討	近畿地整、本省(受注者) 現地協議会	団体を対象に特別見学のコースにて実施中	より満足度の高い見学ルート検討
	ガイドシナリオ・マニュアル作成	近畿地整、本省(受注者) 現地協議会	団体を対象に特別見学のコースにて実施中	より満足度の高い解説内容検討
	定時出発見学ツアーの可能性検討	近畿地整、現地協議会	要員確保と放流頻度(3回/月が上限)	高頻度開催の課題整理
	見学ツアーの収益事業化の可能性検討	近畿地整、現地協議会 (宇治市観光協会、お茶の京都DMO)	有料の特別見学として実施中	持続可能な料金設定について検討
	見学ツアー実施の民間等への委託の可能性検討	近畿地整、現地協議会 (宇治市観光協会、お茶の京都DMO)	観光協会主催にて実施中。ダム内は職員が案内	民間主体による運営体制について条件を整理して検討 参加者の安全性、施設のセキュリティ
②地域の観光資源と連携したコンテンツ検討	都道府県や市町村等の観光振興計画を踏まえた国内・海外の誘客ターゲット層の設定	現地協議会 (宇治市観光協会、お茶の京都DMO)	宇治市の取組との連携を整理	新しい生活様式を踏まえた明確なターゲット設定
	周辺地域の観光資源の洗い出し(自然景観、歴史、伝統文化、生活文化、アクティビティ等)	現地協議会 (宇治市観光協会、お茶の京都DMO)	宇治市観光協会、お茶の京都DMOにて整理	多言語対応など受入体制の整備
	地域の観光資源とインフラ施設を関連付けたストーリーの策定、ガイド養成	現地協議会 (宇治市観光協会、お茶の京都DMO)		ストーリー案の検討(例:ダムとお茶、宇治の水とダム) 外国語ガイドの確保
	半日～1日の観光プログラムの商品化の検討	現地協議会 (宇治市観光協会、お茶の京都DMO)		モデルコース(個人・団体)を設定
	モニターツアー等による検証とブラッシュアップ	現地協議会、本省(受注者)	モニターツアーを実施、結果の集約	事業方針やツアーへの反映点の整理
③インフラツーリズムの運営体制の構築	ツアーの運営主体を中心としたワーキンググループの立ち上げ	現地協議会 (宇治市観光協会、お茶の京都DMO)		民間主体の組織を検討
	協議会、行政及び民間の運営主体との役割分担	現地協議会		明確な役割分担の検討
	着地型旅行商品の造成・販売に関する機能・仕組みの有無の確認	現地協議会	宇治市観光協会、お茶の京都DMOを中心に実施	お茶の京都DMO、観光協会、ツアー実施事業者との役割分担を検討。裾野の広げ方を検討
	協議会から運営主体となる事業者に対する業務委託の検討	現地協議会		条件、手続きメリデメリについて検討
④インフラツーリズムの実践	商品販売手法の検討(自社サイト、外部サイト、旅行会社)	ツアー実施事業者		販売手法の検討、計画の策定
	Webサイト、SNS、雑誌メディア等を活用した国内外への情報発信	現地協議会 (宇治市観光協会、お茶の京都DMO)		情報発信計画の策定、実施
	都道府県や市町村の観光プロモーションと連動した活動の実施(海外旅行博・商談会への出展・参加等)	現地協議会 (宇治市、お茶の京都DMO)		京都府観光連盟との関係深化

2. 各モデル地区の進捗報告 -来島海峡大橋①-

◆ 現地協議会

< 構成員 >

既存組織：環瀬戸内海地域交流促進協議会

四国経済連合会、中国経済連合会、兵庫県、岡山県、広島県、徳島県、香川県、
愛媛県、高知県、四国運輸局、中国地方整備局、四国地方整備局、
本州四国連絡高速道路(株)

その他連携団体：今治市、(一社)愛媛県観光物産協会、(公社)今治地方観光協会
(一社)尾道観光協会、(一社)しまなみジャパン、(株)しまなみ

< 第2回協議会 >

○日 時：令和2年1月14日 10:00～12:00

○場 所：今治市役所

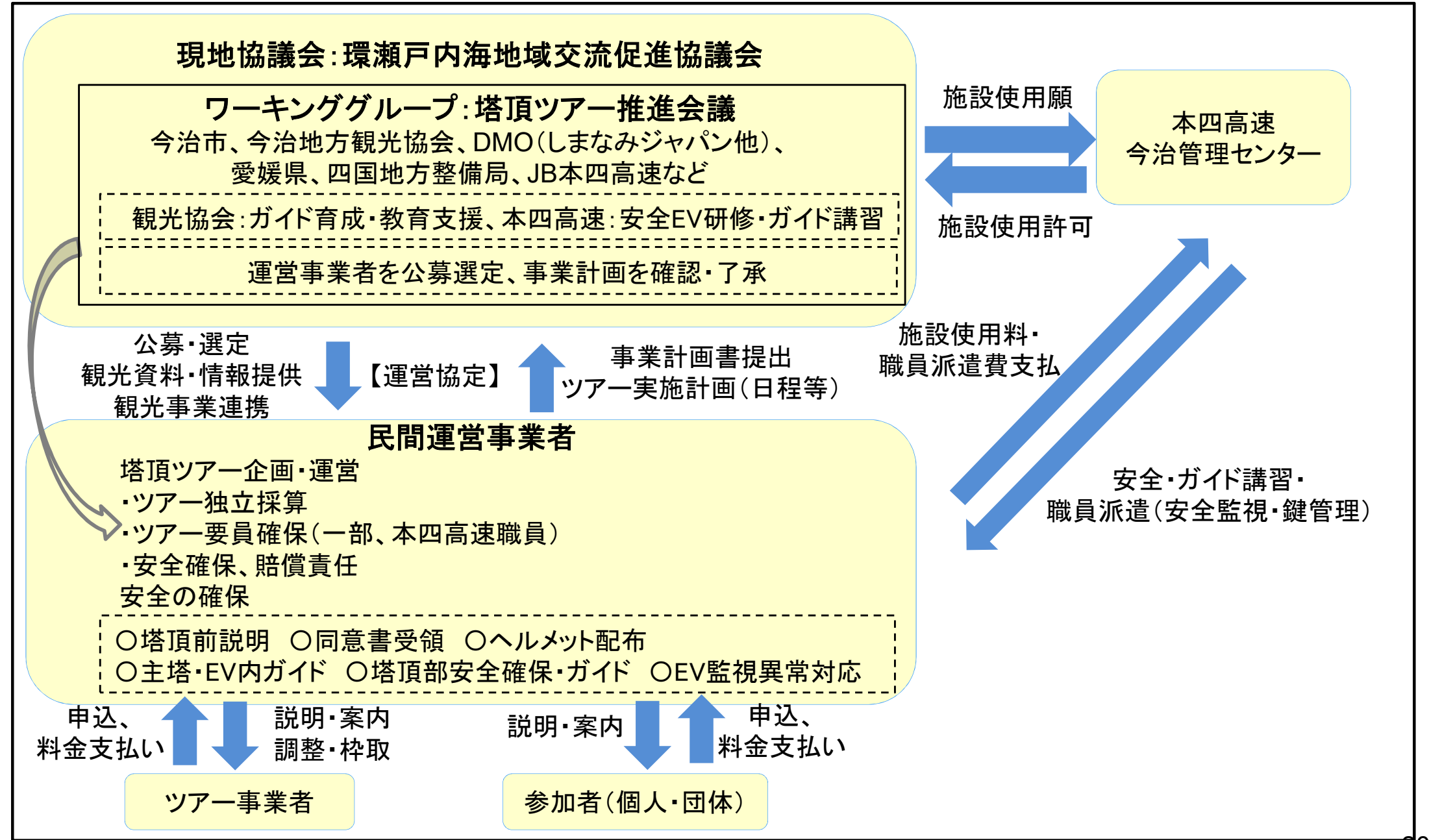
○議 事：

- (1) インフラツーリズム魅力倍増プロジェクトについて
- (2) 有識者より現地調査を踏まえてのアドバイス
- (3) 来島海峡大橋を地元の新たな観光名所 とするための条件と新たな観光ルートの提案について
- (4) 現状の課題整理と今後の対応策について
- (5) 今後のスケジュール(案)



2. 各モデル地区の進捗報告 -来島海峡大橋②-

◆ 運営スキーム(案)



2. 各モデル地区の進捗報告 -来島海峡大橋③-

◆ 検討課題の整理

項目	課題	検討主体	検討状況	今後検討すべき事項
①インフラ施設見学の深度化	既存の見学プログラムの実施状況、参加者の評価、問題点、課題の整理	四国地整、本省(受注者) 現地協議会	既存実施状況について整理	令和2年度以降の課題を整理
	施設固有の魅力・価値の洗い出し、見学者目線での「面白さ」の検討	四国地整、本省(受注者) ワーキンググループ	ツアー提案シートを作成、検討	具体的なツアーへの反映
	見学ルートの検討	四国地整、本省(受注者) ワーキンググループ	ツアー提案シートを作成、検討	イベント型から通年型への拡大 試行実施による検証
	ガイドシナリオ・マニュアル作成	四国地整、本省(受注者) ワーキンググループ		シナリオ・マニュアルの改善点整理
	定時出発の見学ツアーを想定したガイドの確保・育成	四国地整、ワーキンググループ (観光協会、本四高速)		安全・EV研修、ガイド講習
	見学ツアーの収益事業化の可能性検討(原価計算(人件費・保険)等)	四国地整、現地協議会 (今治市)	候補者、必要な人数・体制について検討	原価計算(人件費・保険)、料金設定
	見学ツアー実施の民間等への委託の可能性検討	四国地整、本省(受注者) ワーキンググループ	候補となる事業者について検討	公募・選定の実施
②地域の観光資源と連携したコンテンツ検討	都道府県や市町村等の観光振興計画を踏まえた国内・海外の誘客ターゲット層の設定	四国地整、本省(受注者) 現地協議会、ワーキンググループ		明確なターゲット設定
	周辺地域の観光資源の洗い出し(自然景観、歴史、伝統文化、生活文化、アクティビティ等)	現地協議会 ワーキンググループ	しまなみ海道沿線の資源について整理	各資源の整備・ブラッシュアップ
	地域の観光資源とインフラ施設を関連付けたストーリーの策定	現地協議会 ワーキンググループ		ストーリー案の検討
	半日～1日の観光プログラムとしての商品化の検討	現地協議会 ワーキンググループ		モデルコース(個人・団体)を設定
	ファムツアー等による検証とブラッシュアップの方針	ワーキンググループ ツアー実施事業者	ファムツアーを実施、結果の集約	事業方針やツアーへの反映点の整理
③インフラツーリズムの運営体制の構築	ツアーの運営主体を中心としたワーキンググループの立ち上げを検討	現地協議会、本省(受注者)	塔頂ツアー推進会議として立ち上げ	主体となった事業の推進
	協議会および地元自治体との役割分担を検討	四国地整、現地協議会	役割分担について整理	各組織による事業の推進
	運営主体となり得る組織の候補、協議会メンバーの中でDMO・旅行業登録の有無を確認	現地協議会 ワーキンググループ	社会実験の主体として(株)しまなみを候補	新規事業者の公募に向けて検討
	着地型旅行商品の造成・販売に関する機能・仕組みの有無を確認	現地協議会 ワーキンググループ	社会実験の主体として(株)しまなみを候補	新規事業者の公募に向けて検討
	協議会から運営主体となる事業者に対する公募、選定、業務委託を実施	現地協議会 ワーキンググループ		公募手続きについて検討
④インフラツーリズムの実践	商品販売手法の検討(自社サイト等による販売、外部ポータルサイトへの掲載、旅行会社への素材提供等)	現地協議会 ワーキンググループ		販売手法の検討、計画の策定
	Webサイト、SNS、雑誌メディア等を活用した国内外への情報発信の調査・検討・実施	ツアー実施事業者 ワーキンググループ		情報発信計画の策定、実施
	都道府県や市町村の観光プロモーションと連動した活動の実施(海外旅行博・商談会への出展・参加等)	現地協議会 ワーキンググループ		愛媛県、広島県、本四高速、並びに地元観光関連団体との連携、関係深化

2. 各モデル地区の進捗報告 -来島海峡大橋④-

○第2回協議会意見要旨

- 塔頂体験と観潮船乗船を組み合わせた予約型のコース及び自転車で来島する個人型のツアーについて、運営を行う主体について認識を共有した。
- 1月中に現地で会議を開き、4月以降社会実験として塔頂ができるよう2月から調整を行う。
- 塔頂体験のオペレーションの人材として国、県、市で経験者の確保(候補者の抽出)について合意を得た。



○今後の自走に向けた取組(案)

- ① 4月以降に社会実験として塔頂体験を行うことについて、週末の実施に関する検討
- ② 地元での運営体制について、関係団体における今後の合意形成に向けた更なる調整
- ③ 実際に塔頂体験時に案内する際のガイドシナリオの内容等に関する検討

2. 各モデル地区の進捗報告 -鶴田ダム①-

◆ 現地協議会

<構成員>

既存組織：川内川水系かわまちづくり観光振興部会

鹿児島県、宮崎県、薩摩川内市、さつま町、伊佐市、湧水町、えびの市、
川内川河川事務所、鶴田ダム管理所

その他連携団体：(株)薩摩川内市観光物産協会、NPO法人ひっ翔べ！奥さつま探検隊、
NPO法人バイオマスワークあったらし会、NPO法人水と地球

<第2回協議会>

○日 時：令和2年2月7日 9:00～10:10

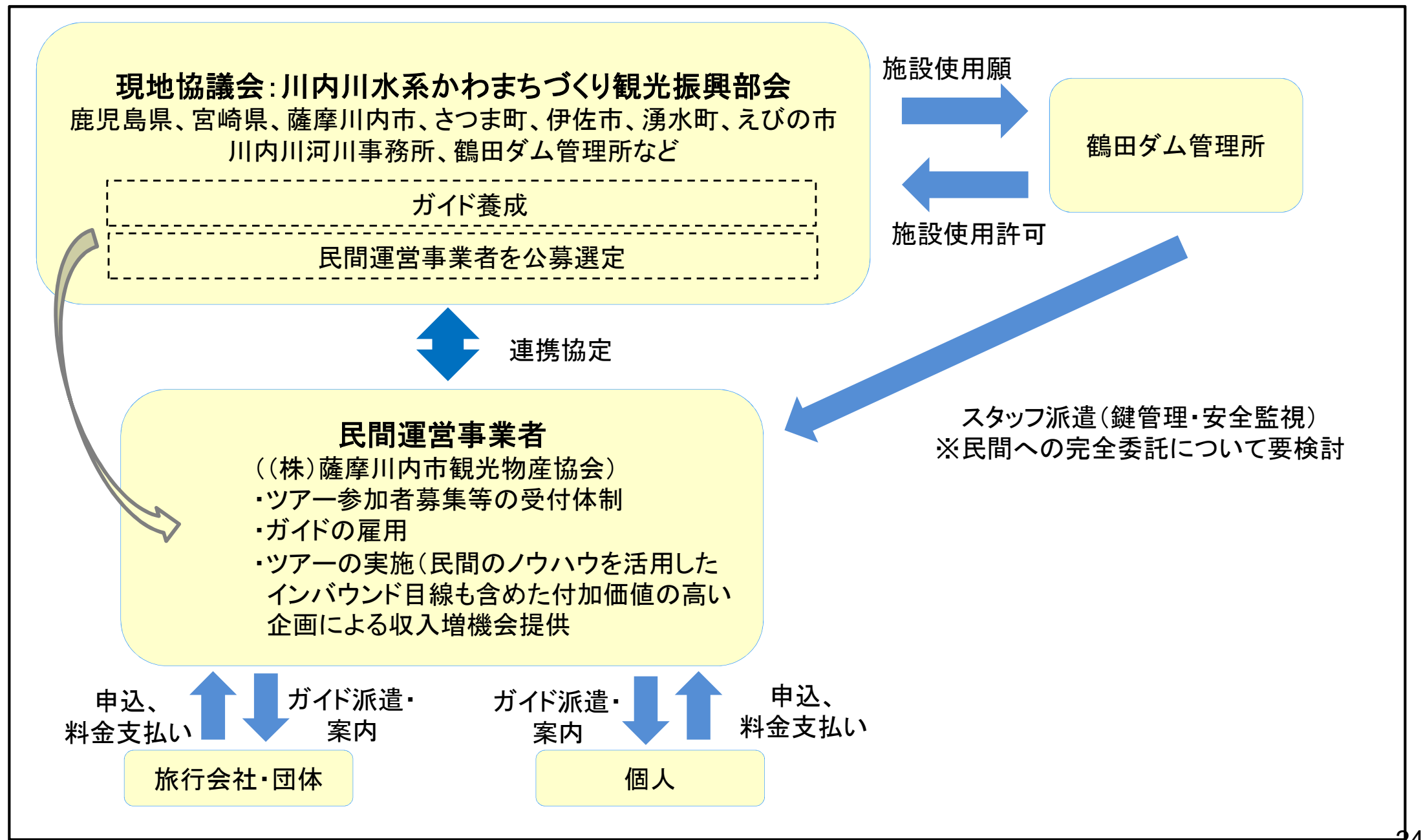
○場 所：さつま町役場

○議 事：(1)運営スキームについて
(2)検討項目への対応について
(3)今後のスケジュールについて



2. 各モデル地区の進捗報告 -鶴田ダム②-

◆ 運営スキーム(案)



2. 各モデル地区の進捗報告 -鶴田ダム③-

◆ 検討課題の整理

項目	課題	検討主体	検討状況	今後検討すべき事項
①インフラ施設見学の深度化	既存の見学プログラムの実施状況、参加者の評価、問題点、課題の整理	九州地整、本省(受注者)	既存実施状況について整理中	令和2年度以降の課題を整理
	施設固有の魅力・価値の洗い出し、見学者目線での「面白さ」の検討	九州地整、本省(受注者)	ツアー提案シートを作成	具体的なツアーへの反映
	見学ルートの検討、ガイドシナリオ・マニュアル作成	九州地整、本省(受注者)	ツアー提案シートを作成	試行実施による検証
	定時出発の見学ツアーを想定したガイドの確保・育成	九州地整、本省(受注者)		現状のシナリオ・マニュアルの改善点整理
	見学ツアーの収益事業化の可能性検討(原価計算(人件費・保険)等)	九州地整	非常勤のダムコンシェルジュにて対応	必要な人数・体制の検討、研修等の実施
	見学ツアー実施の民間等への委託の可能性検討	九州地整、本省(受注者)		原価計算(人件費・保険)、料金設定
②地域の観光資源と連携したコンテンツ検討	都道府県や市町村等の観光振興計画を踏まえた国内・海外の誘客ターゲット層の設定	九州地整、本省(受注者)		安全の確保、保安要員の有無を中心に可能性を検討
	周辺地域の観光資源の洗い出し(自然景観、歴史、伝統文化、生活文化、アクティビティ等)	現地協議会	県、市町村の計画を整理中	明確なターゲット設定
	地域の観光資源とインフラ施設を関連付けたストーリーの策定	現地協議会	3市2町の観光資源をピックアップ	各資源の整備・ブラッシュアップ
	半日～1日の観光プログラムとしての商品化の検討	現地協議会		ストーリー案の検討
	ファムツアー等による検証とブラッシュアップの方針	現地協議会		モデルコース(個人・団体)を設定
③インフラツーリズムの運営体制の構築	ツアーの運営主体を中心としたワーキンググループの立ち上げを検討	現地協議会、本省(受注者)	ファムツアーを実施、結果の集約	事業方針やツアーへの反映点の整理
	協議会および地元自治体との役割分担を検討	九州地整、現地協議会		民間主体の組織を検討
	運営主体となり得る組織の候補、協議会メンバーの中でDMO・旅行業登録の有無を確認	現地協議会		明確な役割分担の検討
	着地型旅行商品の造成・販売に関する機能・仕組みの有無を確認	現地協議会	薩摩川内市観光物産協会が資格あり、運営主体候補	薩摩川内市観光物産協会を有力候補に検討
	協議会から運営主体となる事業者に対する公募、選定、業務委託を実施	現地協議会	薩摩川内市観光物産協会が販売体制あり、運営主体候補	薩摩川内市観光物産協会を有力候補に検討
④インフラツーリズムの実践	商品販売手法の検討(自社サイト等による販売、外部ポータルサイトへの掲載、旅行会社への素材提供等)	現地協議会		公募手続きについて検討
	Webサイト、SNS、雑誌メディア等を活用した国内外への情報発信の調査・検討・実施	ツアー実施事業者		販売手法の検討、計画の策定
	都道府県や市町村の観光プロモーションと連動した活動の実施(海外旅行博・商談会への出展・参加等)	現地協議会		情報発信計画の策定、実施

2. 各モデル地区の進捗報告 -鶴田ダム④-

◆第2回協議会意見要旨

- インフラツーリズムの推進によって地域にどのような効果が期待できるか、地元にとってのインフラツーリズムの意義について認識を共有した。
- 利益が無いと事業が続かないため、収益事業として成り立つ仕組み、体制を構築する必要について確認した。
- 見学者から料金をもらうためには、ダムの見学をさらに磨き上げる必要がある。周辺の観光資源との連携についても、ツアーに組み込むだけでなく、どのような体験ができるのかといったアイデアが重要である。



◆今後の自走に向けた取組(案)

- ① 協議会を中心とした継続的な運営体制の検討
- ② 協議会と民間の運営事業者との連携協定の締結、各自治体が利益を享受する仕組みの構築

2. 各モデル地区の進捗報告 -ハッ場ダム①-

ハッ場ダムの地域振興及び広報の取組（ダムツーリズム）について 生活再建から地域振興へ

- **ダム建設段階の地域振興・広報**
 - ・『やんばツアーズ』等、ダム建設のあらゆる場面を観光資源と捉え、多くの人にダム現場に来てもらう仕組みづくりを実施。
 - ・SNSやホームページ、Youtubeなどでファン層の裾野拡大、リピーターを確保。ダムマニアによる自主的な情報発信への仕掛け。
- **ダム完成以降を見据えた地域振興**
 - ・ダムを基軸とした観光地域づくり、地域が儲かる仕組みづくりを実施。官主導から地域主導へ。

➤ **ダム建設段階の地域振興・広報** いつでも無料の展望台を設置



『やんば見放台（H27.9開設）』

➤ **ダム建設段階の地域振興・広報** 工事事務局が主体となった『やんばツアーズ』



『やんばコンシェルジュ』による 工事現場案内も実施
H30年度は約5万5千人が利用（開始前の20倍）

多様な情報発信 民間ツアーの受入



『ハッ場ダムファン倶楽部特別見学会』
など多彩な見学会を開催



ダムマニアによるfacebook
での情報発信



民間による情報発信と
旅行者によるダム周辺での消費を促進

➤ **ダム完成以降を見据えた地域振興** 『ハッ場ダムガイドツアー』



地元が設立した民間会社によるツアー
H30年度約6500人参加(前年度比約1.5倍)

『ハッ場語り部ツアー』



地元（チームやんば（※））主催のツアー企画
※長野県全体を盛り上げようとする地元住民と地元自治体を主体とした任意団体

『歩け歩け見学会』



ハッ場ダムを基軸とした さまざまな仕組みづくりや商品開発



ハッ場ダムの工事現場見学や
スタンプラリーに参加するとダム
カード入手可能

2. 各モデル地区の進捗報告 -ハッ場ダム②-

◆建設段階から管理段階へ

- ・首都圏で唯一の建設中のダムである「ハッ場ダム」が令和元年度完成
- ・平成29年度から約2年半にわたる「やんばツアーズ」を経て、地域住民、企業が主体となる有料見学ツアー等の開始

◆平成29年度から今年度までの取組

検討① インフラ施設見学の深度化

- ・魅力・価値の洗い出しを行い、平成29年度から見学者目線での「やんばツアーズ」を実施
- ・見学ルート、ガイドシナリオ・マニュアル、地元ガイドの育成を実施

検討② 地域の観光資源と連携したコンテンツ検討

- ・地元事業者等にヒアリングを実施し誘客ターゲット層の設定、周辺観光資源の洗い出しを実施
- ・訪日外国人を対象としたインフラと地域資源（長野原町ほか3町）を巡るファムツアー
- ・近隣観光地（草津温泉）からの誘客を想定したモニターツアー

検討③ インフラツーリズムの運営体制構築

- ・地域住民、企業が主体となる有料見学ツアー窓口設置

検討④ インフラツーリズムの実践

- ・平成29年度から令和元年度上半期まで実施した建設中モデルの成果について取りまとめを実施
- ・やんばツアーズが新聞、TV、雑誌等メディアに取り上げられ、見学者数が増加
- ・地元では、ハッ場ダムを基軸とした様々な仕組みや商品開発
- ・地域住民、企業が主体となる有料見学ツアー開始

2. 各モデル地区の進捗報告 -ハッ場ダム③-1~建設中ダムモデル~

H29年度実施内容

平成29年3月22日記者発表資料より



国土交通省インフラツーリズム

やんば ツアーズ

いまだけ - ここだけ - あなただけ

**本年4月1日から
ハッ場ダム観光プロジェクト
“やんばツアーズ” がスタートします。**

**誕生！日本一の
インフラ観光ツアー**

いましか見られない！
ハッ場ダム工事見学。

2017年は、
カスリーン台風から70年

**ハッ場ダム建設がいよいよ佳境に。
平成31年度ダム完成予定！！**

- 進化① **新登場！**
ご案内役「やんばコンシェルジュ」誕生！
- 進化② **日本一！インフラ観光ツアー**
目的別に楽しめる合計10本の見学プランをご用意！
- 進化③ **日本でここだけ！ハッ場ダムならではの
体験と記念と特典を進呈！**
- 進化④ **ダム見学受け入れ人数を
なんとっ！10倍に増強！**
- 進化⑤ **全国の鉄道・バス会社、旅行会社、学校、
さらには地元観光地との連携を強化！**

2. 各モデル地区の進捗報告 -ハッ場ダム③-2～建設中ダムモデル～

やんばツアーズ2018 見学プラン10

平成30年度上半期版
(4月1日～9月30日)



～ハッ場の歴史と地元の文化。なぜダムが必要か？あなたの知りたいにお答えします～

個人向け (1名～)

個人1 ハッ場ダムぱらっと見学会

予約不要 1～40名

以下の日程で開催。予約不要で好きな時間に工事現場を見学できる。

平日 ①11:00～②13:00～
休日 ①10:00～②11:00～③13:00～④14:00～⑤15:00～

40分
月～日曜日 (木曜休み)

個人2 ハッ場ダムファン倶楽部見学会

ハッ場ダムファン倶楽部とはハッ場ダムが大好きで、ハッ場ダム及び周辺地域を応援し、盛り上げてくれる方の集まり。

不定期開催

個人3 ハッ場ダム季節限定見学会

ハッ場ダム周辺地域の豊かな自然とダム見学を楽しめる見学会。(写真はイメージ)

不定期開催

個人4 ハッ場ダムジオパーク見学会

長野原町特別企画。ジオサイトとダム見学をセットで楽しめる見学会

不定期開催

個人5 ハッ場ダム土曜の夜の現場見学会

土曜の夜に24時間施工で明かりをつけている光輝くダム工事を見学！

19:30頃～ 50分

団体向け (10～50名)

団体1 やんばコンシェルジュ御案内ツアー

要予約 10～50名

一般の団体を対象にやんばコンシェルジュが現場を案内するツアー。

①10:15～
②13:15～
③15:15～

50分or90分
月～日曜日 (木曜休み)

団体2 ハッ場最先端技術見学ツアー

要予約 10～50名

土木技術者や土木系学生の団体を対象に国土交通省職員が現場を案内するツアー。

①10:15～
②13:15～
③15:15～

50分or90分
月～日曜日 (木曜休み)

団体3 YAMBA INBOUND TOUR

要予約 10～50名

訪日外国人の団体を対象にやんばコンシェルジュが現場を案内するツアー。

①10:15～
②13:15～
③15:15～

50分or90分
月～日曜日 (木曜休み)

団体4 やんばまるごと体験ツアー

100名迄
要予約

小・中学生の団体を対象に模型づくり行いと工事現場を案内するツアー。教育旅行や社会科見学で活用。

①10:15～
②13:15～
③15:15～

50分or90分
月～金曜日 (木曜・祝日 休み)

団体5 プレミアムフライデーヤンナイトツアー

要予約 10～50名

一般の団体を対象にやんばコンシェルジュが現場を案内するツアー。毎月最終週の金曜日(プレミアムフライデー)の夜のみ受け付けている。

19:30頃～ 60分

2. 各モデル地区の進捗報告 -ハッ場ダム③-3~建設中ダムモデル~-

真田ゆかりの山里をたずねる

ハッ場ふるさとエコツアー

2018

ハッ場ふるさとエコツアー実行委員会
林地区ハッ場ダム対策委員会

ハッ場地区には、古くからの街道がいくつも通っています。中でも、喜喜川沿いの街道は「喜喜道」(喜喜街道)ともよばれます。また、喜喜温泉の代表的な「仕上げ湯」である川原湯温泉や名勝「喜喜渓谷」があります。歴史・自然豊かな地域の魅力を多くの人に知ってもらい、地域に貢献していただくことが私たちの「エコツアー」をやっていく理由です。

ハッ場ダムの建設が佳境を迎える今、完成前の今しか見られない景色、「ハッ場の今」を地元住民がご案内します。お賢者にご参加ください！

河川 公益財団法人河川環境財団による
河川基金の助成を受けています。

ハッ場ふるさとエコツアー 2018年度 ツアー・プログラム一覧 ※グループ、団体様の観望ガイド案内も行っています。申込・問合せ先までご確認ください。

①道陸神峠越え 新緑エコツアー

江戸時代の街道神峠越え古道と、喜喜渓谷歩道を巡り、小滝からはハッ場ダムの本体工事現場を眼下に眺望する。今年限定！新緑エコツアーです。

申込締切 4/26(木)午後5時

集合 道の駅 ハッ場ふるさと温泉 (9:00 受付開始-9:30 出発-15:00 解散)

対象 小学校3年生以上/定員20名

費用 大人2,500円・子供1,800円 (道の駅特設会場・お茶・保険代・登山道管理協力費)

持ち物 歩きやすい服装・靴

4/29(日)

②ホテル観賞エコツアー

清流に舞う「ホテル」に酔う

林地区で暮らす大切に守られているグンギョボタル。山の奥から湧いてくるような幻想的な景観が、景観空間に映え、息をのませます。

申込締切 前々日(木)午後5時

集合 道の駅 ハッ場ふるさと温泉 (19時集合-20時30分解散)

対象 一般/定員20名

費用 700円・小学生300円 (マップ・保険代・足湯入浴・環境管理協力費)

持ち物 歩きやすい服装・靴など

6/30(土) ~7/7(土) 毎日実施!

⑤山里パワースポット 紅葉エコツアー

『秋の風、山の音』に木霊を聴いて、真田の歴史を語り、山里の魅力を体験しよう！

申込締切 11/1(木)午後5時

集合 道の駅 ハッ場ふるさと温泉 (9:00 受付開始-9:30 出発-15:00 解散)

対象 大人2,500円・子供1,800円 (道の駅特設会場・お茶・保険代・登山道管理協力費)

持ち物 歩きやすい服装・靴など

11/4(日)

③王城山 紅葉エコツアー

旧真田酒造に隣接する「王城山神社」から、山頂の「古城」跡をめざします。道の城だったのか、誰がよければカモシカに会えるのか？

申込締切 10/25(木)午後5時

集合 道の駅 ハッ場ふるさと温泉 (9:00 受付開始-9:30 出発-15:00 解散)

対象 小学校3年生以上/定員20名

費用 大人2,500円・子供1,800円 (道の駅特設会場・お茶・保険代・登山道管理協力費)

持ち物 歩きやすい服装・靴など

10/28(日)

④吾妻渓谷 紅葉エコツアー

吾妻渓谷に「おとろけ」で訪れる！ いったい何が？ 美しい渓谷の紅葉の奥にひそむ歴史の一面にふれ、ハッ場ダムの建設現場も遠望します。

申込締切 10/25(木)午後5時

集合 道の駅 ハッ場ふるさと温泉 (9:00 受付開始-9:30 出発-15:00 解散)

対象 小学校3年生以上/定員20名

費用 大人2,500円・子供1,800円 (道の駅特設会場・お茶・保険代・登山道管理協力費)

持ち物 歩きやすい服装・靴など

10/28(日)

2018 エコツアー-FAX申込書

お申込み先 道の駅 ハッ場ふるさと館 0279-83-8089

参加を希望するエコツアーに○

①道陸神峠越え(4/29) ④吾妻渓谷紅葉エコツアー(10/28)
②ホテル観賞エコツアー(参加希望日) ③王城山紅葉エコツアー(10/28) ⑤山里パワースポット紅葉エコツアー(11/4)

申込代表者氏名
その他参加者氏名

代表者連絡先
住所
電話番号
FAXまたはEメール

※携帯電話番号 (ツアー当日に連絡のつく番号)

※お知らせ頂いた個人情報は、ツアー運営・保険加入以外の目的には一切使用しません。

ハッ場ダム現場見学 やんばXツアーズ いまだけ、ここだけ、あなただけ

ハッ場ダム 地元ガイドナイトツアー

私達にしか語れない
ダム地域の歴史と展望を語ります。

開催日時 17:30-18:30
10月16日(火)
11月7日(水)
12月6日(木)
申込先着順 40名程度

チームやんばが主催となり、地元を知り尽くした地元在住ガイドがハッ場ダム建設現場をわかりやすくご案内するとともに長野原町の未来を語ります。

【主催】チームやんば
【集合場所】川原湯湖畔公園駐車場(裏面参照)
【申込方法】FAXもしくはメールにてご希望見学日の2日前の17時までに
お申し込み下さい。(申込用紙は裏面)
Fax: 0279-82-3115
Mail: kikaku2244@town.naganohara.gunma.jp

【問い合わせ先】
長野原町役場企画政策課
Tel: 0279-82-2244

※写真は全てイメージです。

もらえる！ 川原湯温泉の素

八基石

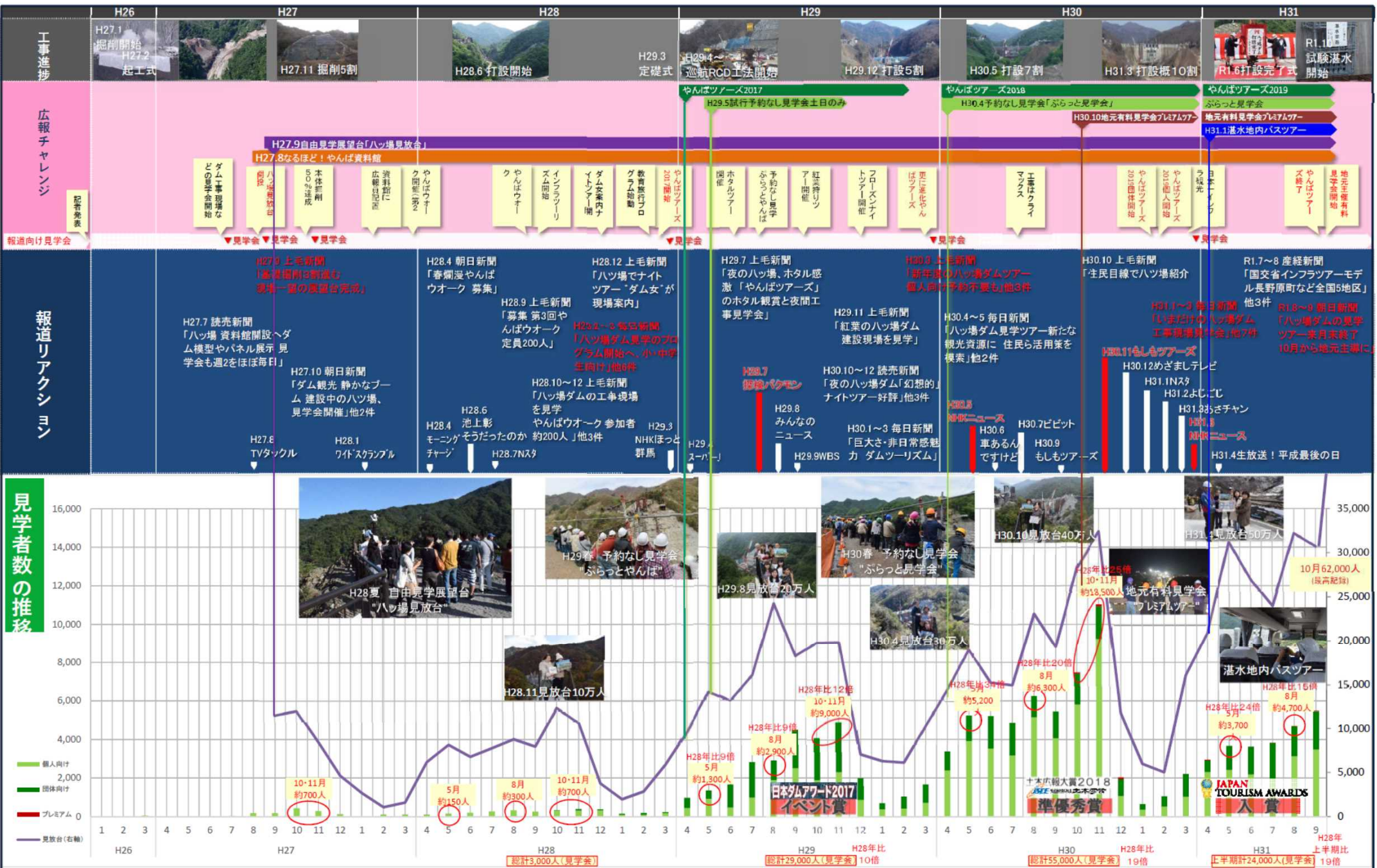
参加者限定ダムカード

今だけ! ¥500

NO ALCOHOL NO SMOKING NO BATHING NO PETS

2. 各モデル地区の進捗報告 -ハツ場ダム③-4～建設中ダムモデル～

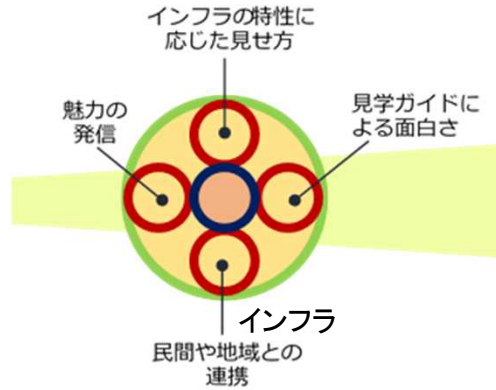
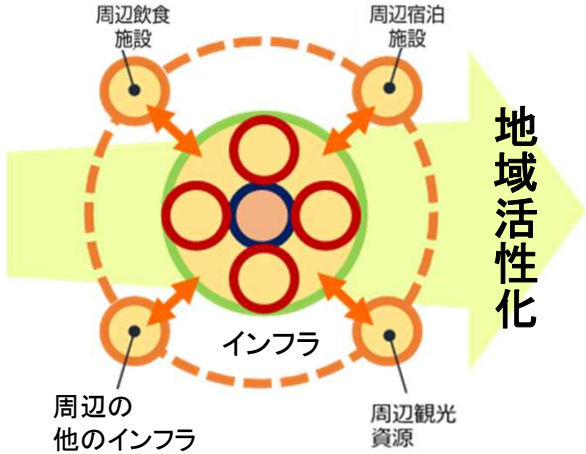
ハツ場ダム広報チャレンジと見学者の推移(ハツ場ダム本体建設工事)



3. これまでの成果

3. これまでの成果 –インフラツーリズム拡大のステップと4つの検討項目の関連–

「インフラツーリズム拡大の手引き－試行版－」の「インフラツーリズム拡大のステップ」と検討項目①～④の関連を以下のとおり整理。

土木広報 ～インフラツーリズムの基礎～	土木広報＋付加価値 ～魅力ある観光資源へ～	(土木広報＋付加価値) × 周辺観光資源 ～地域と連携した観光地域づくり～
		
土木広報としてインフラの見学会を実施している段階	インフラの見学会を磨き上げ、より広範囲から人を呼び込む段階	インフラと地域との連携により、周辺観光資源等にも立ち寄り、より一層地域活性化が図れる段階
施設管理者が実施主体		
①インフラ施設見学の深度化	インフラ施設の特性整理 → 深度化の方向性の検討 → 具体的なターゲットとコンテンツ、付加価値の検討 → 見学・体験の運営体制の構築 → 収益化、民間委託等の展開	
②地域の観光資源と連携したコンテンツ検討	周辺資源の抽出 → インフラ施設と地域の基本となるストーリーの作成 → ターゲット設定・インフラ施設見学と資源の組合せ → ツアー化・モデルプログラム化 → 検証・ブラッシュアップ	
③インフラツーリズムの運営体制構築	関係団体の抽出 → 協議体制の構築 → 関係団体の担うべき役割の整理 キャッシュフローの整理 → 運営体制、スキームの構築	
④インフラツーリズムの実践	効果的な販売・情報発信 収益の適性な配分、運用	

3. これまでの成果 —新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から—

- 新型コロナウイルス感染拡大防止を意識した各施設での対策等
「旅行業における新型コロナウイルス対応ガイドライン」等、各省庁が公開するガイドラインに準拠し、「密」な状態とならないような見学、案内の体制構築が必要である。
(例) 来島海峡大橋のエレベーター利用、各ダム堤体の監査廊での案内時等
- 事業推進のスケジュール
今後、観光が回復した状況下においても、第二波、第三波による感染拡大とならないよう、対策を講じる必要がある。会議体やファム・モニターツアー等については、機を逃すことのないよう実施を前提に計画し、準備を進めつつ、各モデル地区・ツアー行程ごとに感染リスクの洗い出しを行い、ガイドラインに応じた対応策を検討・実施する。

※参考ガイドライン一例

各所のツアー内容に応じて、必要な対応策をガイドライン等を参照して検討・実施する。

「新しい旅の エチケット」(国土交通省)

「旅行業における新型コロナウイルス対応ガイドライン」(日本旅行業協会、全国旅行業協会)

「旅行関連業における新型コロナウイルス対応ガイドラインに基づく国内修学旅行の手引き」(日本旅行業協会)

「貸切バスにおける新型コロナウイルス対応ガイドライン」(貸切バス旅行連絡会)

「宿泊施設における新型コロナウイルス対応ガイドライン」(全国旅館ホテル生活衛生同業組合連合会他)

「外食業の事業継続のためのガイドライン」(一般社団法人 日本フードサービス協会 他)

「小売業の店舗における新型コロナウイルス感染症感染拡大予防ガイドライン」

(オール日本スーパーマーケット協会他)35

3. これまでの成果

ーインフラツーリズムにおける新型コロナウイルス感染防止対策内容例ー

カテゴリ	考えられるリスクと対策内容案
お客様への要請	・事前の体調及び体温の確認依頼を要請する。 ・旅行中、熱中症予防に配慮の上、マスクの着用を要請する。
インフラ施設の利 用方	・バスやエレベーター、案内会場等を利用する場合、一度に利用する人数制限や飛沫感染防止の観点に立った立ち位置のマーキングを行う。 ・バスやエレベーター、案内会場等の通気性の確保や、定期的な喚起を行う。 ・エレベーターのボタン等への接触を特定のスタッフに限定する。 ・展示物や机、エレベーターのボタン等、接触部分を定期的に消毒する。 ・ガイド担当者等スタッフはマスク及びフェイスシールドを装着する。
その他、事前の 対策等	・旅行中、要所要所での手洗い・うがいができるよう、適切な休憩場所等を選択する。 ・旅行中に体調不良となったお客様は、旅行から離団し、他の参加者への感染防止の対応を行うとともに、最寄りの保健所や医療機関に相談・受診できるよう事前に準備する。

※対策例は各種ガイドラインを参照。
※ファム・モニターツアー実施に当たっては、行程検討と合わせて各ガイドラインを参照し、各立ち寄り箇所等における対策を個別に検討・実施する。

3. これまでの成果 — 旅行会社等での取組における具体例 —



2020年6月18日【第20-2号】
クラブツーリズム株式会社

報道関係各位

新型コロナウイルス感染予防の取り組みを制定 新基準のツアー「クラブツーリズム ニュースタイル」新展開 ～バスツアーは、窓側の席のみをご用意～

クラブツーリズム株式会社(本社:東京都新宿区、代表取締役社長:酒井博、以下クラブツーリズム)は、お客様に安心してツアーにご参加いただくために、新型コロナウイルス感染予防に対する取り組みとお客様へのお願いを、動画とともに当社のホームページに公開しました。また、当社独自のガイドライン(※)に沿った新基準のツアー「クラブツーリズム ニュースタイル」を本日より発売いたしました。
※一般社団法人日本旅行業協会(JATA)制定のガイドラインをもとに策定

- ▼感染予防に対する取り組みとお客様へのお願い
<https://www.club-t.com/sp/special/common/corona/>
- ▼クラブツーリズム ニュースタイル
<https://www.club-t.com/sp/special/japan/ct-newstyle19/#brotherTab>

■安全・安心に向けた取り組み

お客様および当社スタッフや地域の皆様に対して、国や自治体の対策ガイドラインのもと、当面の間、「3密対策」「接触対策」「飛沫対策」「体調管理」を基本対策として徹底していきます。



ホームページに公開の動画(一例)

<当社の具体的な取り組み>

1. ツアーディレクター(添乗員)および当社スタッフの検温などの体調管理の徹底
2. ツアーディレクター(添乗員)および当社スタッフの、業務中におけるマスクまたはフェイスガード等の着用
3. バス乗降口など適切な場所への消毒液等の設置
4. ツアー参加人数を限定し、人と人との距離を考慮したバス座席へご案内
8月出発まで貸切バスは1人2席または窓側席のみの利用(送迎バス、路線バスは除く)
5. 車内換気システムのある貸切バスを利用(一部、島しょ部を除く)
6. バス車内の接触箇所は、毎日消毒を実施
7. ツアーでは自由散策など密を避ける観光と長めの滞在時間をご用意
※ガイドングレシーバーの使用など、密集しない対策を取り団体行動へご案内する場合あり
8. 各業界の対策ガイドラインを順守している観光・食事・宿泊施設を選定

<ツアーに参加されるお客様へのお願い>

1. ツアー参加前に検温を実施ください
熱がある、咳が出る、喉が痛いなどの症状がある方はご参加いただけません
2. ツアー参加前に健康チェックシートに記入し必ず提出ください
3. 定期的な手指の消毒とマスクの着用をお願いします
熱中症対策のため、野外では人との距離を確保し適宜マスクを外してください
4. ツアー中のソーシャルディスタンス確保にご協力ください
5. バス車内での飲食・食事・大声での会話は控えください
6. 手荷物の運搬や写真撮影は接触機会削減のため各自でお願いします

■「クラブツーリズム ニュースタイル」

- ・本日発売のツアーは、首都圏、関西圏、中部圏、北海道、福岡県出発の約40コースをご用意
(ツアー設定日は、7月下旬から8月が中心の商品ラインナップ。順次販売予定)
- ・当社のガイドラインに基づいたツアー
- ・当面は、日帰りバスツアー、日帰りの現地集合プラン、フリープランを中心に発売
政府や自治体の方針に従い、ガイドラインと照らし合わせてツアー条件を緩和していく

<新しい旅の形 「クラブツーリズム ニュースタイル」 19名様以下のツアー> 「密集」「密閉」「密接」を避け、安心してツアーに参加していただくためのお約束

- ・ツアーへのご参加はバス1台につき19名様限定、バス座席は、窓側の席のみ利用とし、お客様の距離を確保
- ・※7・8月出発の現地集合プランは10名様限定、宿泊施設の送迎バスは除く
- ・観光時間は通常の1.5～2倍(弊社基準)を取るゆとり行程
- ・換気機能完備の観光バスを利用、車内換気に配慮
- ・お食事会場では、グループ様毎のお座席間隔を十分に確保(バス車内でのお弁当等の提供は控える)
- ・宿泊施設、立ち寄り施設は、弊社で感染防止対策状況等を確認し選定
- ・ツアーは添乗員付き(フリープランを除く)。安全管理のため、お客様のルール順守を誘導

<ツアー一例>

◆首都圏発 日帰りバスツアー

『希少品種! 千葉アケメロンを味わい! 地場産品の産直市 房総産イセエビ2本食べ比べ! 豪快房総海の幸御膳!』
(コース番号: JT600-988 ほか)

行程: 新宿ほか各地発→浦富(お百姓市場にて産直市開催! 農産物などお買い物)
→南房総市(昼食/房総産イセエビ2尾の食べ比べ!)->野島崎(自由散策)
→南房総(アケメロン1/4ご賞味)->各地着
設定日: 8月22日・23日・24日・25日・26日・27日・28日・30日・31日
旅行代金: 14,900～17,900円
ポイント: 瑞々しい千葉「アケメロン」やイセエビ2尾食べ比べ、風光明媚な海辺の景色など
夏の南房総を楽しむ充実プランを安全・安心に配慮しご案内

◆現地集合プラン(首都圏) 『講師同行 鎌倉七福神めぐり』

(コース番号: C3171-988)

行程: 北鎌倉駅(現地集合)→浄智寺(布袋尊)→鶴岡八幡宮(旗上弁財天)→宝戒寺(毘沙門天)
→妙隆寺(寿老人)→本覚寺(東尊)→鎌倉観光会館(たこめし御膳の昼食)→長谷寺(大黒天)
→御霊神社(福祿寿)→長谷駅(現地解散)
設定日: 7月28日
旅行代金: 8,900円
ポイント: 少人数10名限定。ガイドングレシーバーを使って講師の解説が聞ける学び旅

◆現地集合・登山ツアー(中部圏) 『フェイスシールド付! 少人数でいく木曽駒ヶ岳』

(コース番号: 78910-988)

行程: 駒ヶ根駅→しらび平→駒ヶ岳ロープウェイ→千畳敷→千畳敷カール→乗越浄土
→木曽駒ヶ岳→宝剣山荘→千畳敷カールから、同行車で帰路
設定日: 7月26日、8月29日、9月13日
旅行代金: 16,000円
ポイント: ・名古屋から日帰りで行ける数少ない日本百名山のひとつで、木曽駒ヶ岳に詳しいガイドが同行
・フェイスシールドをお客様にご提供し、募集人数各班10名と少人数制かつ現地集合・解散で
感染予防対策を実施

◆関西圏発 日帰りバスツアー 『今だからこそ疫病退散と健康祈願! 世界遺産・高野山めぐり』

(コース番号: 98448-988 ほか)

行程: 梅田ほか各地発→高野山・奥の院(明智光秀公の墓所などガイド同行でご案内)
→一の橋(精進料理のご昼食)→清浄心院(「鳳凰奏殿」にて護摩行による祈禱)
→隋心院(薬師如来特別開帳)→各地着
設定日: 8月1日・2日・8日・9日・15日
旅行代金: 15,000～16,000円
ポイント: 「疫病退散」「身体健全」にご利益のあるパワースポット・高野山へご案内
世界に一つだけの厄除開運香守「お清め香袋」をお渡し
※クラブツーリズムはKNT-CTホールディングスのグループ会社です

◆報道関係者のお問合せ先

クラブツーリズム株式会社 広報担当: 横島 麻実、青木 之
TEL: 03-5323-6875 (月～金 9:15～17:30・土日祝除く) FAX: 03-3342-4445 E-Mail: ctpr@club-tourism.co.jp
所在地: 〒163-0240 新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル 40階 コーポレートサイト: <http://www.club-tourism.co.jp>

「新型コロナウイルス感染予防の取り組みを制定 新基準のツアー『クラブツーリズム ニュースタイル』新展開」

3. これまでの成果 — 令和元年度成果の整理 —

- ・ 前回懇談会において提示した①～④の検討項目について、今後インフラツーリズムの取組を検討している地区への展開を念頭において取りまとめる。
- ・ 取りまとめに当たっては、「各地域でどのように取り組むべきか」をフローとして整理。

検討①: インフラ施設見学の深度化

★どのようにして顧客価値を向上させるかについて整理する。

検討②: 地域の観光資源と連携したコンテンツ検討

★ターゲット層の設定、地域の魅力を発信するストーリー組み立てについて整理する。

検討③: インフラツーリズムの運営体制構築

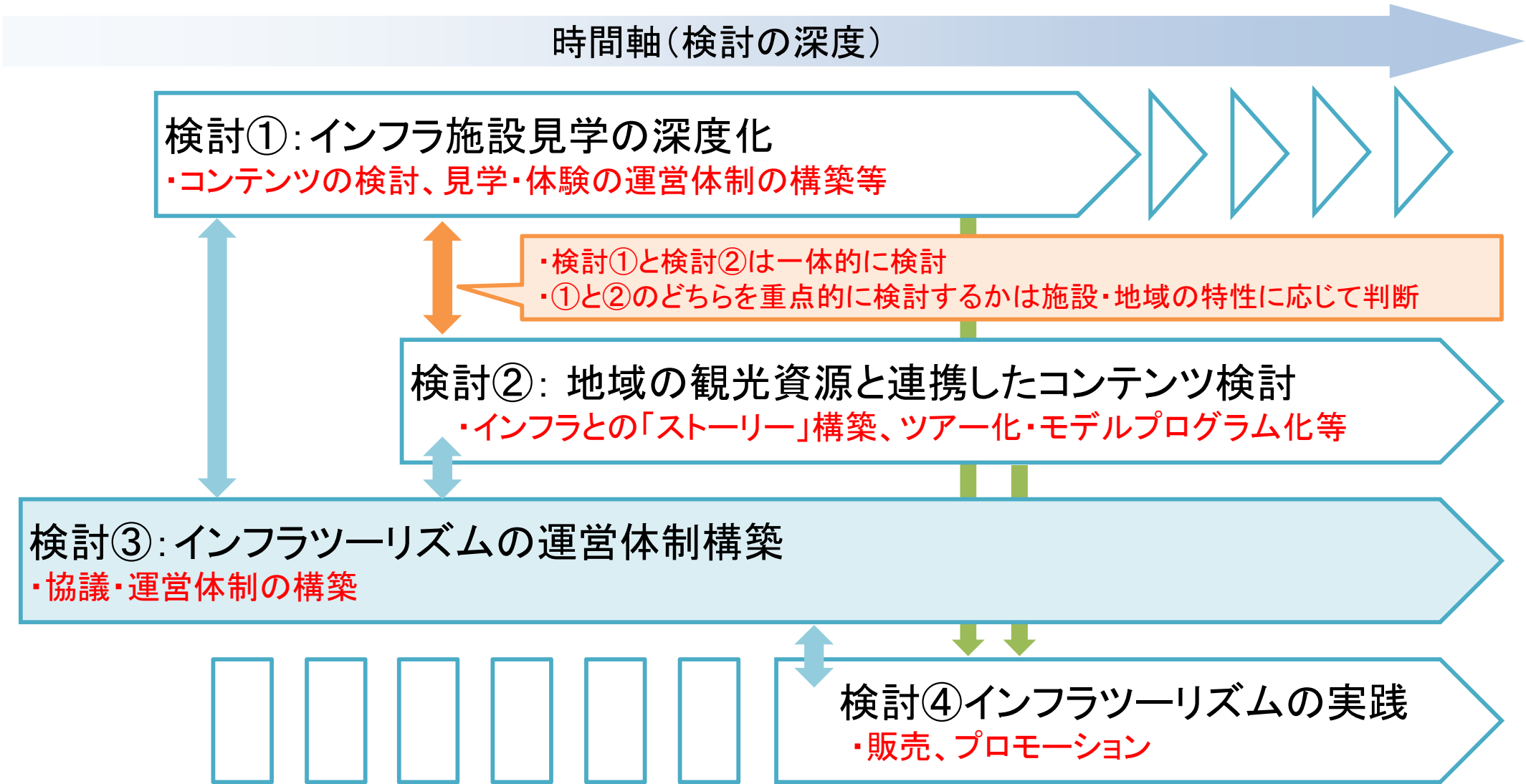
★地域での自立的なツアー実施のための体制構築について整理する。

検討④: インフラツーリズムの実践

★販売手法やプロモーションのあり方について整理する。

3. これまでの成果　－検討①～④の関係－

- 検討③（インフラツーリズムの運営体制構築）を軸に、検討①（インフラ施設見学の深度化）、検討②（地域の観光資源と連携したコンテンツ検討）及び検討④（インフラツーリズムの実践）を検討していく



3. これまでの成果 ー検討①ー

検討①: インフラ施設見学の深度化

★どのようにして顧客価値を向上させるかについて整理する。

【検討のポイント】

インフラの特性を踏まえた効果的な「見せ方」を検討し、顧客価値の向上を図る。

1. 今現在持っている魅力の拡大 2. 新しい使い方で新しい価値を生み出す 3. わかりやすさ、見せ方の磨き上げ

◆地域における検討のフロー

インフラ施設の特性整理

- ・ インフラ施設の特性、持っている特徴を整理する。

深度化の方向性の検討 (磨き上げ方の決定)

- ・ インフラの特性、特徴を踏まえて整理する。
(例)
 1. 既に施設の持っている魅力を増やす(頻度を増やす) 例: 観光放流
 2. 既にあるものの活かし方を考える 例: キャットウォーク
 3. 特徴を生かした新しい使い方、使い方の工夫 例: プロジェクションマッピング
 4. インフラ自体に関係ないが、オプション的な付加価値を付けられるもの
例: フォトウェディング、バンジージャンプ

具体的なターゲットとコンテンツ、 付加価値の検討

- ・ 方向性に合わせたターゲットを設定する。
- ・ 具体的なコンテンツを検討する。

見学・体験の運営体制の構築

- ・ 民間事業者等を含めた持続的な運営体制の構築、ガイド等の育成、安全確保体制を検討する。
- ・ わかりやすさ、見せ方のさらなる磨き上げを行う。

3. これまでの成果 ー検討②ー

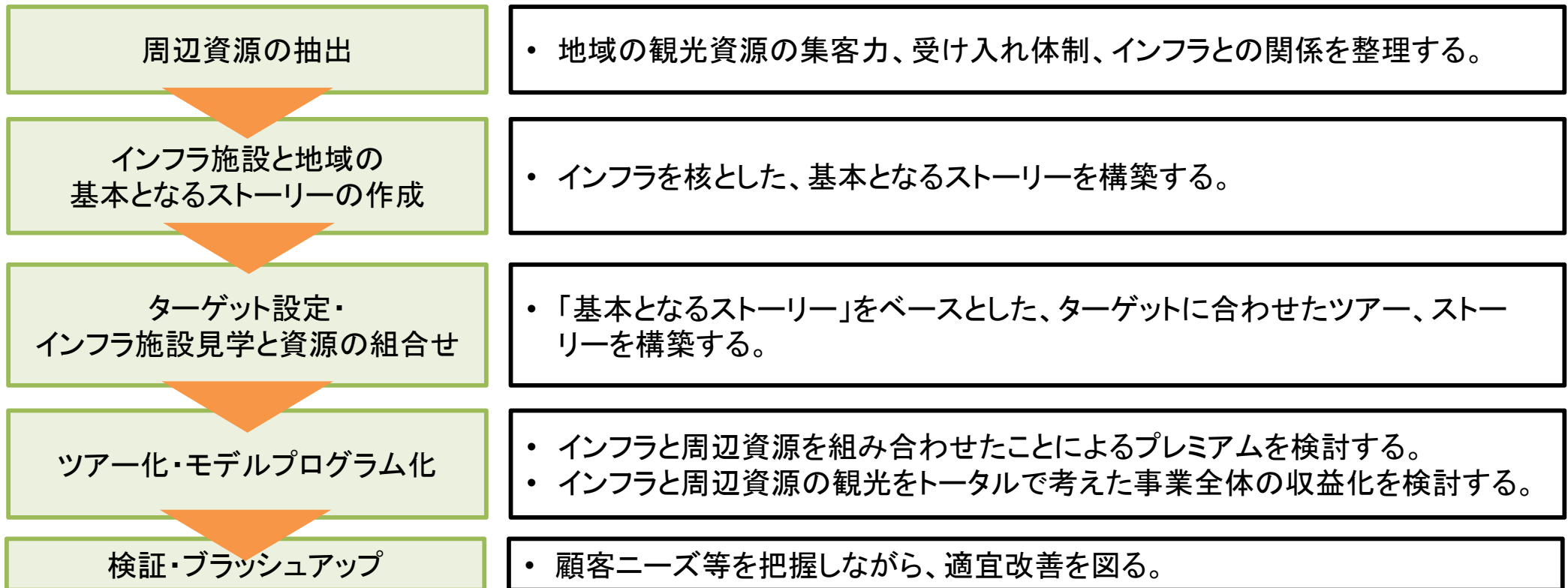
検討②：地域の観光資源と連携したコンテンツ検討

★ターゲット層の設定、地域の魅力を発信するストーリー組み立てについて整理する。

【検討のポイント】

地域と連携してインフラツーリズムを推進していくための、インフラと周辺の観光資源を結ぶ必然性のあるストーリー構築が重要。

◆地域における検討のフロー



※ファシリテーターを交えたワークショップなどを試行しながら検討を進める

3. これまでの成果 ー検討③ー

検討③: インフラツーリズムの運営体制構築

★地域での自立的なツアー実施のための体制構築について整理する。

【検討のポイント】

組織体制面だけでなく、運営資金面から「お金の流れ」も含めて持続可能な体制を構築することが重要。

◆地域における検討のフロー

関係団体の抽出

- ・ インフラ管理者、既存協議会、民間運営事業者（地元DMOなど）、旅行会社、観光協会、行政などの関係者を抽出する。

協議体制の構築

- ・ 関係者による継続的な協議・意思決定の場となる協議会等を構築する。
※既存の協議会等がある場合は、これを活用することも考えられる

関係団体の担うべき役割の整理

- ・ 運営体制の構築に向けて、関係団体の役割分担を明確化する。

キャッシュフローの整理

- ・ 関係する各組織が事業の利益を享受できる「お金の流れ」を整理する。

運営体制、スキームの構築

- ・ インフラ施設見学やツアーを継続的に実施するための体制を構築する。
（施設見学・ツアーの運営事業者、地域とインフラを一体的に解説できるガイド等）
※令和元年度のモデル地区での体制を踏まえ、モデルパターンを整理する。

※インフラ施設のコアな部分を公開しツアーの付加価値を高めるためには施設管理者の関与が必要

3. これまでの成果 ー検討④ー

検討④インフラツーリズムの実践

★販売手法やプロモーションのあり方について整理する。

【検討のポイント】

運営体制を持続しながら、販売やプロモーションを重ね、継続的にインフラツーリズムの実践を続けることが重要。

着地型観光商品の企画・造成

- ・ ターゲットとなる層に対応し、ストーリーに沿った着地型観光商品の企画・造成を行う。
- ・ 旅行者への直接販売、旅行会社への素材提供の双方について検討する。

効果的な販売・情報発信

- ・ ターゲットとなる層に対して有効な情報発信手段を検討する。
- ・ 関係団体のネットワークを使った商品販売手法を検討する。

ツアーの実施

- ・ 収益性を意識したツアー実施可否を判断する。
- ・ 参加者アンケートを通じた評価を集約し、改善点を抽出する。

実践の継続

- ・ インフラツーリズムの実施により得られた収益を地域に還元し、持続的に運営を継続する。
- ・ 収益を原資とした、新たな商品造成のを検討する。

3. これまでの成果　－各モデル地区の現状整理－

モデル地区	予約管理 ガイド手配	ガイド	プロモーション	施設管理者	テーマ 内容	検討事項
鳴子ダム	○ (一社)みやぎ 大崎観光公社 ★旅行業あり	× ツアー内容により 地元協力者を調整 (高校・大学との連 携は検討課題)	×	鳴子ダム管理所	・テーマ:「水」 ・若者の団体を取り込みたい ・すだれ放流の通年実施 ・温泉との連携ツアー ・夜の見学プログラム検討中 ・選奨土木遺産	・民間企業への呼びかけ未 ・すだれ放流が現状年1回のみ ・ガイドがいない ・インクラインの定員が少ない ・災害対応検討要
天ヶ瀬ダム	△ お茶の京都DMO ★旅行業あり	△ 宇治市 観光協会 ※柵内は淀川 ダム統合管理所	△ お茶の京都 DMO 宇治市観光協会 京阪	淀川ダム 統合管理所	・テーマ:「もう1つの京都」 ・お茶、お寺との合わせた見せ方 ・フットパスとの連携 ・高山・比奈地ダムとの連携 ・南山城12市町村との連携	・個人用の駐車場がない ・フットパス(市内～ダム)は 河川管理者・市で整備中 ・旧志津川発電所利用のための 条件整備要
来島海峡 大橋	○ 観光事業者 ★旅行業あり	○ 観光事業者 ※主塔は 本四高速	○ 観光事業者	本四高速今治 管理センター	「主塔」の訴求 (主塔貸し切りプラン等) ・高付加価値高単価	・ツアー実施に向けて体制を確立 ・主塔の管理上5名同行必要 (本四OB等含め検討中) ・夏季は主塔内の高温が課題
鶴田ダム	○ 薩摩川内市 観光物産協会 ★旅行業あり △ さつま町 観光特産品協会 (旅行業なし)	△ 薩摩川内市 観光物産協会	△ 薩摩川内市 観光物産協会	鶴田ダム 管理所	・水防・治水 ・教育旅行 ・焼酎貯蔵 ・点検放流の訴求 ・旧曾木発電所との連携 ・武家屋敷サムライツアーリズム 人気	・パンフレット作成中
ハッ場ダム	—					・ハッ場ツアーズ令和元年9月終了 →地元での自走化に向けて 取り組み中

3. これまでの成果 **ー鳴子ダムー**

	令和元年度の成果
検討① インフラ施設見学の深度化	- すだれ放流の通年実施など、歴史的インフラの四季折々の美しさの見せ方を検討し、季節ごとの見学プログラム企画による鳴子ダム観光の通年化を検討 - 情報発信資料の作成、ボランティアガイドの育成の方向性を確認
検討② 地域の観光資源と連携したコンテンツ検討	- 大崎耕土(世界農業遺産)や鳴子温泉郷など、周辺の温泉、名勝、遺産を結ぶストーリーを検討 - ファムツアーでは東北(宮城県)の魅力(温泉・食・日本酒)を組み合わせ、東北(宮城県)の魅力をアピール
検討③ インフラツーリズムの運営体制構築	鳴子ダムを核とした大崎耕土1市4町との連携(協議)体制を構築
検討④ インフラツーリズムの実践	—

3. これまでの成果 **-天ヶ瀬ダム-**

	令和元年度の成果
検討① インフラ施設見学の深度化	• キャットウォークからの見学と観光放流を組み合わせた、一般にもわかりやすい見学プログラムの定例化を検討 • 天ヶ瀬ダムインフラツーリズムの多角化(隣接ダムとの連携)を検討 • 宿泊と組み合わせた普段立ち入れない施設の案内や夜間ライトアップ等プレミアム企画を検討
検討② 地域の観光資源と連携したコンテンツ検討	• 京都市内に集中する旅行者をターゲットに、周辺(京都府南部と隣接地域)地区の世界遺産等観光資源との広域連携によるインフラと地域の歴史・文化をつなぐストーリーを検討
検討③ インフラツーリズムの運営体制構築	• お茶の京都DMOを主体とした協議体制を構築 • 運営体制においても同DMOを主体とする方向性で検討
検討④ インフラツーリズムの実践	• お茶の京都DMOを主体とした情報発信、ツアー販売ルート等を検討

3. これまでの成果 -来島海峡大橋-

	令和元年度の成果
検討① インフラ施設見学の深度化	• 塔頂エレベーターのキャパシティが限られることを踏まえ、少数限定、高単価な見学ツアーの設定を検討 • 見学ルートを整備、安全確保(ガイド)、解説資料の整備・多言語化等の受け入れ環境の整備の方向性を検討
検討② 地域の観光資源と連携したコンテンツ検討	• 「村上海賊(日本遺産)」、「サイクリング」を主な地域の観光資源とし、橋と周辺地域(島々)の地理、歴史を結ぶストーリーや、瀬戸大橋・明石海峡大橋を含む広域連携を検討
検討③ インフラツーリズムの運営体制構築	• 既存の環瀬戸内海地域交流促進協議会を主体とした協議体制を構築。 • 運営体制については、施設管理者、DMO、民間事業者を中心とした体制の検討に着手。
検討④ インフラツーリズムの実践	• 社会実験として塔頂体験を行う方向性を確認し、検討中。

3. これまでの成果 -鶴田ダム-

	令和元年度の成果
検討① インフラ施設見学の深度化	ターゲットに合わせた既存見学会のブラッシュアップ、ダム施設の特徴を生かした焼酎貯蔵などのプログラム立案、水力発電施設の見学と組み合わせたダムの利水見学ツアーなどを検討。
検討② 地域の観光資源と連携したコンテンツ検討	- 鶴田ダムを核とした沿川3市2町との連携方針を確認。 - 各市町の特性を生かした連携イメージ(温泉・宿泊、アクティビティ、歴史ツーリズム、焼酎など)を整理。 - ファムツアーを実施しインバウンド関係者からの意見を収集。
検討③ インフラツーリズムの運営体制構築	既存のかわまちづくり協議会観光振興部会を主体として、インフラツーリズムのWGを構築。
検討④ インフラツーリズムの実践	—

3. これまでの成果 -ハッ場ダム-

	平成29年度から令和元年度の成果
検討① インフラ施設見学の深度化	- 魅力・価値の洗い出しを行い、見学者目線での「やんばツアーズ」を平成29年度から令和元年度上半期まで実施 - 見学ルート、ガイドシナリオ・マニュアル、地元ガイドの育成実施
検討② 地域の観光資源と連携したコンテンツ検討	- 地元事業者等にヒアリングを実施し誘客ターゲット層設定、周辺観光資源の洗い出し実施 - 訪日外国人を対象としたインフラと地域資源（長野原町他3町）を巡るファムツアー - 近隣観光地（草津温泉）からの誘客を想定したモニターツアー
検討③ インフラツーリズムの運営体制構築	地域住民、企業が主体となる有料見学ツアー窓口設置
検討④ インフラツーリズムの実践	- 建設中モデルの成果について取りまとめを実施 - やんばツアーズが新聞、TV、雑誌等メディアに取り上げられ、見学者数が増加 - 地元では、ハッ場ダムを基軸とした様々な仕組みや商品開発 - 地域住民、企業が主体となる有料見学ツアー開始

3. これまでの成果　－各モデル地区の進捗状況一覧－

◎：実施・実施準備段階（実施内容・役割分担等の決定）　○：方針検討段階
△：検討着手段階（課題の整理等）　－：検討未着手

	鳴子ダム	天ヶ瀬ダム	来島海峡大橋	鶴田ダム	ハッ場ダム
検討① インフラ施設見学の 深度化	△ 通年化を検討	○ 見せ方を検討、 民間主導の運営 体制を検討	◎ 2020年度に 社会実験を予定 ガイド確保を検討	○ 見学ツアーやプ レミアムの検討	◎ インフラの魅力・ 価値の洗い出し、 地元ガイド育成等
検討② 地域の観光資源と連 携したコンテンツ検討	○ 「水」のストーリ や今後の進め方 を検討	○ お茶や地域の歴 史・文化をつなぐ ストーリを検討	○ 民間事業者を中 心に周辺地域と の連携を検討	○ 各市町やNPOが 連携したツアー造 成を検討	◎ 周辺観光資源、 地域資源との連 携等
検討③ インフラツーリズムの 運営体制構築	○ 協議体制は構築 運営については 検討中	○ DMOを中心とし た運営体制を検 討中	○ 管理者、DMO、民 間等による運営 体制を検討中	○ 管理者、市町、民 間等による運営 体制を検討中	◎ 地域・企業が主 体の有料見学ツ アー窓口設置
検討④ インフラツーリズムの 実践	－	△ 販売ルートや情 報発信を検討中	△ 社会実験を予定 プロモ、販売は検 討中	－	◎ 地域・企業が主 体の有料見学ツ アー開始

4. 今後の実施方針(案)

4. 今後の実施方針(案)

◆令和元年度の事業内容

- 各地整から推薦された20地区のモデル地区候補より、5地区のモデル地区を選定
- 各地区における協議体制の立ち上げ、事業実施方針の作成、ツアー提案を実施、今後の自走に向けた検討課題の整理
- 5地区のモデル地区での検討を踏まえた検討の進め方の整理

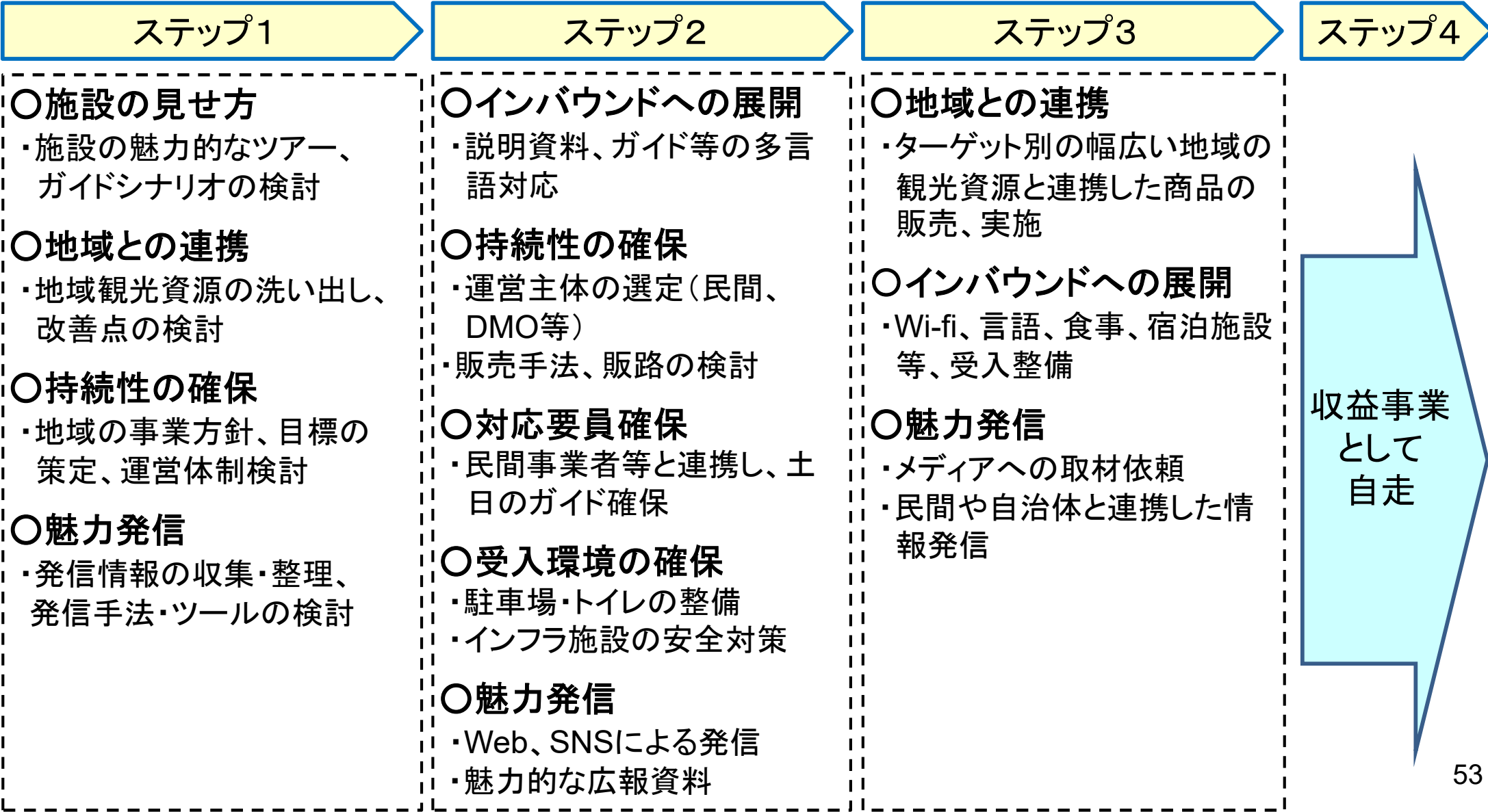


◆令和2年度の事業内容

- 5地区のモデル地区に対するフォローアップの継続(最終的には地域における自走を前提としつつ、協議、検討等についてサポートを継続)
- 新たなモデル地区の追加検討
- 新型コロナウイルスの影響を考慮し、現実的なスケジュールで実施内容を計画する

4. 今後の実施方針(案) – 自走化に向けた検討 –

インフラツーリズム事業の自走化に向けての段階ごとの検討、実施項目を「インフラツーリズム拡大の手引きー試行版ー」の「勘所」を踏まえて整理。



4. 今後の実施方針(案) -鳴子ダム-

◆令和元年度成果を踏まえた今後の検討事項

検討① インフラ施設見学の深度化	「水」を主役に見学の通年化と夜間見学の検討 - 見学受入可能な人数と価格設定、組み合わせの検討
検討② 地域の観光資源と連携したコンテンツ検討	「水」を主役の世界農業遺産を組み合わせたストーリーの策定 - オルレなど体験型の素材との組み合わせ
検討③ インフラツーリズムの運営体制構築	運営体制、役割分担の検討、収益化を目指したモデルの構築
検討④ インフラツーリズムの実践	販売手法の検討、情報発信計画の策定



◆令和2年度の事業内容

①運営体制の構築	中心組織となる大崎市との連携、民間企業(一社みやぎ大崎観光公社)の体制構築を推進する必要あり。
②ガイドの担い手の確保	ツアー内容により地元協力者を調整 (高校・大学との連携は今後の検討課題)
③周辺地域と連携したガイドストーリーの構築	テーマ「水」(上流から下流まで)
④すだれ放流の実施検討	(東北地方整備局にて検討)

4. 今後の実施方針(案) -天ヶ瀬ダム-

◆令和元年度成果を踏まえた今後の検討事項

検討① インフラ施設見学の深度化	・ 繰り返し見学に参加してもらえるようなより満足度の高い見学内容の検討 ・ 民間主導の運営体制の検討
検討② 地域の観光資源と連携したコンテンツ検討	・ 宇治茶とダムを結ぶストーリーの検討
検討③ インフラツーリズムの運営体制構築	・ 自治体、DMO、観光協会、ツアー実施事業者の役割分担検討
検討④ インフラツーリズムの実践	・ 情報発信やプロモーション等の検討



◆令和2年度の事業内容

①運営体制の構築	・ 企画・予約管理:お茶の京都DMO、実施:宇治市観光協会、流通:京阪の連携体制を維持し、個人向けの商品造成ができるよう淀川ダム統合管理所と連携し検討要
②周辺地域と連携したガイドストーリーの構築	・ 既存のインフラのみのガイド内容の洗い出し→周辺観光資源と連携したブラッシュアップ
③ツアー商品造成・実証	・ 団体向けツアーは既にあり→周辺観光資源と連携させた個人向けツアー商品造成

4. 今後の実施方針(案) -来島海峡大橋-

◆令和元年度成果を踏まえた今後の検討事項

検討① インフラ施設見学の深度化	・ 公団や県OBも含めたガイド人材の確保
検討② 地域の観光資源と連携したコンテンツ検討	—
検討③ インフラツーリズムの運営体制構築	・ 「お金の流れ」も含めたツアー等の運営体制の構築
検討④ インフラツーリズムの実践	・ プロモーションや販売ルートの検討



◆令和2年度の事業内容

①運営体制の構築	・ 地元観光事業者:ガイド・船あり。主塔の管理上5名同行必要 ・ 地元観光事業者に運営を委託するための協議会等の構築 ・ 業者選定の手続き
②周辺地域と連携したガイドストーリーの構築	・ 地元観光事業者での運営を前提に渦潮見学等を含む周辺観光資源と連携したストーリーの検討
③ツアー商品造成・実証	・ 夏以降実施に向けて本四高速・四国地整でスケジュール調整中

4. 今後の実施方針(案) -鶴田ダム-

◆令和元年度成果を踏まえた今後の検討事項

検討① インフラ施設見学の深度化	・ インフラ施設見学の詳細検討、民間事業者への委託も見据えた運営体制の検討
検討② 地域の観光資源と連携したコンテンツ検討	・ 地域の観光資源との連携について、具体的な連携のプログラムを検討
検討③ インフラツーリズムの運営体制構築	・ 「お金の流れ」も含めたツアー等の運営体制の構築
検討④ インフラツーリズムの実践	・ プロモーションや販売ルートの検討



◆令和2年度の事業内容

①運営体制の構築	・ 川内川水系かわまちづくり観光振興部会と連携し、運営体制を確立する
②周辺地域と連携したガイドストーリーの構築	・ 管理事務所に勤務するコンシェルジュの活用、連携も検討
③ツアー商品造成・実証	・ 通年で実施している見学との差別化、土日対応などの検討
④パンフレットの活用による認知拡大方策検討	・ 新たに作成したインフラツーリズムのパンフレットの活用方策の検討

4. 今後の実施方針(案) -ハツ場ダム-

◆令和元年度成果を踏まえた今後の検討事項

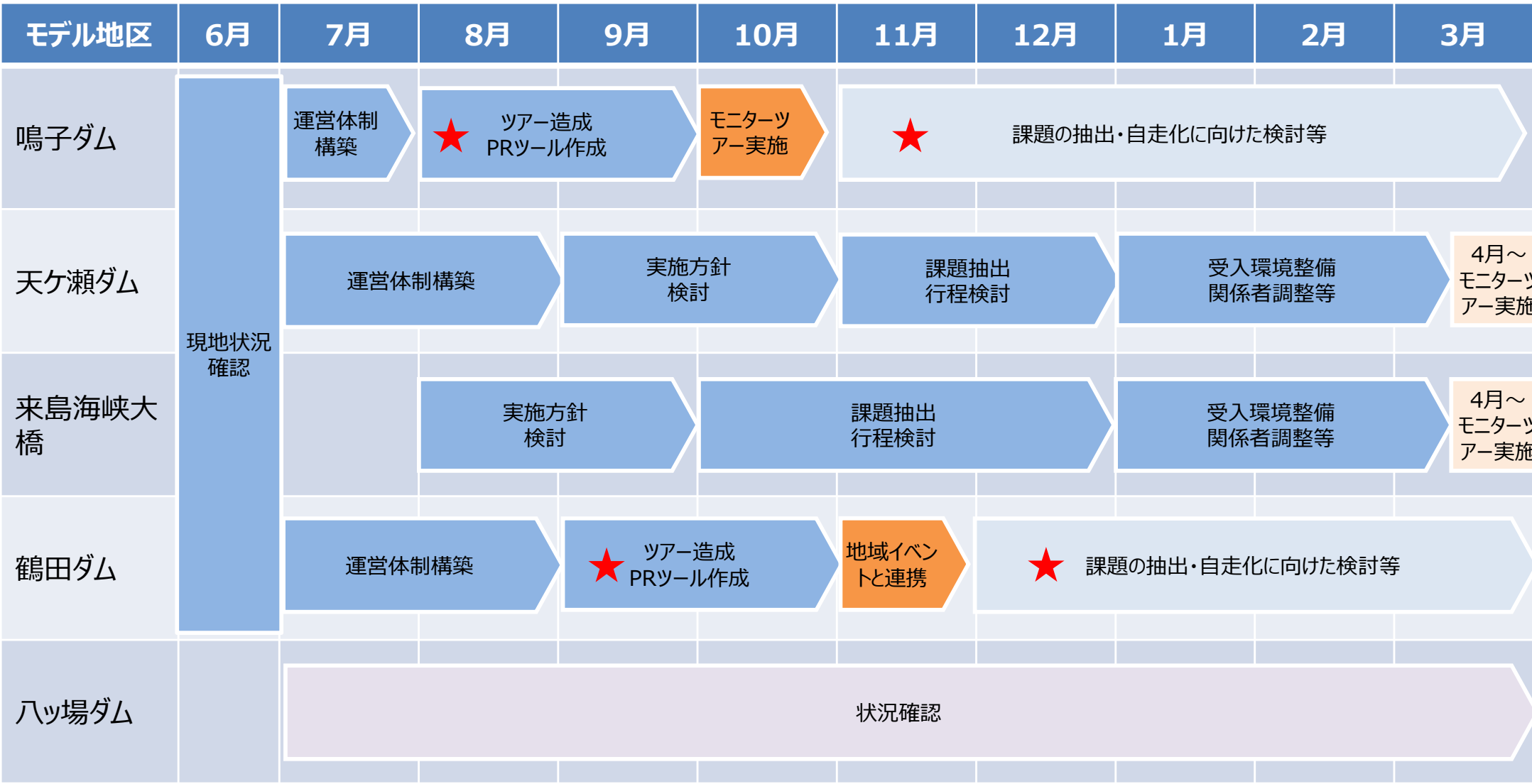
検討① インフラ施設見学の深度化	地域住民、企業が主体となり、完成後のダム堤体等を活用した見学ツアーや、地域の観光資源とダム周辺の観光施設の連携によるインフラツーリズムの自走
検討② 地域の観光資源と連携したコンテンツ検討	・ダム堤体や管理棟等を活用した有料のダム見学ツアーやイベントの実施 ・吾妻溪谷や浅間山が育む豊かな自然の恵み、魅力ある観光資源、ハツ場ダム周辺の様々な施設等と、ダム上下流地域の連携、近隣観光資源(草津温泉、軽井沢)を組み合わせたコンテンツの活用
検討③ インフラツーリズムの運営体制構築	・ダムコンシェルジュ、吾妻峡ボランティアガイド、浅間山ジオガイド、エコツアーガイド等の人材の交流と情報の連携や発信、人材育成
検討④ インフラツーリズムの実践	

4. 今後の実施方針(案) –モデル地区5箇所の実施スケジュール–

※今後、コロナの状況等に応じて変更の可能性あり

※ツアー等実施のためには、コロナ感染予防の安全対策の検討が必要

★・・・協議会の開催



5. インフラツールズの今後の留意点

5. インフラツーリズムの今後の留意点

インフラツーリズムの今後の方針策定にあたっては、インフラの種類、立地、地域の戦略等により、目指す姿が異なることから、インフラツアーとして一括りにするのではなく、まずは目指すべき姿を明らかにし、タイプ分けを行ったうえで、実現性等について評価し、モデル地区の絞り込みを行っていく必要がある。

＜ステップ1. インフラツーリズムのタイプ分け＞

- ・ 既存のインフラツアーについてタイプ分けを実施

＜ステップ2. モデル地区についてフィージビリティスタディー＞

- ・ 目指すべきインフラツアーの姿について、関係者にて議論
- ・ フィージビリティスタディーを行い、実現性について評価
- ・ 必要に応じてインフラツアーの姿を見直し、実現可能なプランに磨き上げる

＜ステップ3. モデル地区の絞り込み＞

- ・ フィージビリティスタディーをクリアしたものについて支援を実施。早期の自立を目指す

5. インフラツーリズムの今後の留意点

<ステップ1. インフラツーリズムのタイプ分け>

インフラの種類、立地、地域の戦略により目指すツアーの姿が異なることから、「インフラツアー」と一括りにするのではなく、目指すべき姿を明らかにし、関係者で共有することが必要である。目指すべき姿を明らかにするために、まずは既存のインフラツアーについて指標ごとに分析し、事業タイプ(目的)の見直しを図る。

【タイプ分けの指標】

インフラ	ダム、橋梁、水路……
運営事業者	民間(営利)、NPO(非営利)、事業者直営、なし
事業規模(年間売上)	億単位、～5000万、～3000万、1000万以下
料金/人	10000、5000、3000……
年間集客数	〇〇万人……
見学所要時間	～1時間、1～2時間、3時間以上
パーティー規模	40人(バス1台分)、20人……
ガイド人数/パーティー	2人、1人
年間経費	～3000万、～5000万、～7000万、1億以上
うち固定経費	～2000万、～3000万、～4000万
うち人件費	～1000万、～2000万、～3000万
常勤雇用者数	～2人、～5人、10人以上
非常勤雇用者数	～2人、～5人、10人以上
ツアー実施日数/年間	100回以上、50回以上、20回以上、10回以下
資金調達方法	民間資金、交付金、* * 税等

【事業タイプ(目的)一例】

生業型、事業PR型、施設一般開放型 など

5. インフラツーリズムの今後の留意点

《具体例》

	湯西川水陸両用バスツアー	琵琶湖疏水船乗船体験ツアー	首都圏外郭放水路ツアー
開始年	2007(14年目)	2018(3年目)	2018(3年目)
インフラ種別	ダム	水路	地下放水路
事業(目的)タイプ	民間(協議会)	民間(協議会)	民間(協議会)
運営事業者	NPO法人 日本水陸両用車協会	JTB/琵琶湖汽船	東武トップツアーズ
事業規模(年間売上)	6,000~8,000万円	約8,000万円	6,300万円(2019年3月~12月)
料金/大人	3,300円	4,000~8,000円	3,000円 立坑体験コース 2,500円 ポンプ堪能コース 1,000円 地下神殿コース
年間集客数	約2万1,000人(R1)	1万2,000人	4万7,000人(2019年3月~12月)
ツアー時間	70~80分	下り便55分、上り便35分 集合30分前、解散下船後10分後 ※ガイドによる案内	110分 立坑体験コース 100分 ポンプ堪能コース 60分 地下神殿コース
最大パーティー規模	40人(ガイド等別)	下り便12人、上り便9人	20人または50人
ガイド人数/パーティ	2人(運転+ガイド)	2人(船長+操船ガイド)	2人(ガイド2人)
年間経費	-	-	-
常勤雇用者数	5人	約5人	15人(アルバイト契約含む)
非常勤雇用者数	15人	約20人	-
年間ツアー実施日数	約200日(7カ月)	約120日(3、4、5、6月、10、11月・運休日あり)	262日(2019年3月~12月)
資金調達方法	民間資金	内閣府地方創生交付金、文化庁日本遺産、 大津市負担金、協賛金、ふるさと納税等 ※現状の運営は乗船料のみで黒字化見込	民間資金

5. インフラツーリズムの今後の留意点

＜ステップ2～3＞

事業タイプ(目的)を明らかにし、目指すべき姿を定め、フィージビリティスタディーを通してツアーごとに実現性等について評価し、モデル地区の絞り込みを行う。

＜ステップ2. モデル地区についてフィージビリティスタディー＞

- ・ 目指すべきインフラツアーの姿について、関係者にて議論
- ・ フィージビリティスタディーを行い、実現性について評価
- ・ 必要に応じてインフラツアーの姿を見直し、実現可能なプランに磨き上げる

＜ステップ3. モデル地区の絞り込み＞

- ・ フィージビリティスタディーをクリアしたものについて支援を実施。早期の自立を目指す